



「安乗埼灯台及び灯台資料館の利活用調査」事業

実施団体名：
安乗埼灯台観光活性化推進コンソーシアム

対象灯台：
安乗埼灯台（三重県志摩市）

調査検証の目標～明らかにしたい仮説

安乗埼灯台および周辺（灯台資料館、園地、灯台カフェ、大王崎灯台など）には、現時点では認識できていない価値や利用の可能性がある。それらが分かり、安乗埼灯台および周辺の新たな整備や活用をすることで、志摩市民のシビックプライド向上や、観光消費額の増加が図れる。 1

調査検証報告

安乗埼灯台 (三重県志摩市)

「安乗埼灯台及び灯台資料館の利活用調査」事業

実施団体名

安乗埼灯台観光活性化
推進コンソーシアム

連携団体など

志摩市役所（事務局：観光課）、志摩スポーツコミッション
あのりおこし（安乗旅館組合、あのり有志会等）
志摩市灯台活用推進協議会、JTB総合研究所 他

1.調査・検証概要

調査検証を構想した背景

- 安乗埼灯台は明治6（1873）年に設置されて以来、地域のシンボルであり、灯台隣接地には1980年まで中学校があったため、地域の人々にとって思い入れの強い場所です。
- 安乗埼灯台は2004年に参観灯台として一般公開され、志摩市の観光スポットのひとつになっていますが、近年、灯台参観者数が減少傾向にあります。
- 一方で近年、灯台周辺において、全国から人を集めている場所もあります。隣接する安乗神社が始めた「安全に乗る」お守りが、バイク愛好家やサーフィン愛好家の間で話題になっています。また、灯台横の休憩舎は「灯台カフェ」としてリニューアルオープンし、絶景と地元名物・芋スイーツが評判になっています。



2.調査検証の目標～明らかにしたい仮説

安乗埼灯台および周辺（灯台資料館、園地、灯台カフェ、大王崎灯台など）には、現時点では認識できていない価値や利用の可能性がある。それらが分かり、安乗埼灯台および周辺の新たな整備や活用をすることで、志摩市民のシビックプライド向上や、観光消費額の増加が図れる。

survey 01

安乗埼灯台に関する基礎調査

基礎データ、設置経緯、周辺環境、整備状況、関係者インタビューを行いました。



survey 02

安乗埼灯台および灯台資料館に対するニーズ調査

観光客数や滞在時間を増加させる施策や設備等の検討に資する調査を、観光専門シンクタンクとともに企画実施しました。



survey 03

市民ワークショップ

市民や市内観光事業者等を対象とするワークショップ（全3回）を開催し、灯台の歴史や価値を学んでいただくとともに、利活用アイデアを募り、灯台を通じた地域活性化の機運醸成を図りました。

survey 04

灯台マルシェの開催

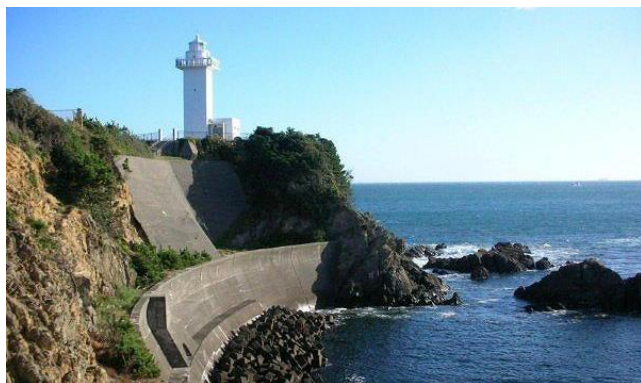
市民や市内事業者とともに企画運営し、会場整備（テント購入）やチラシ配布、シャトルバス運行などを行い、これまでより充実した内容、多くの集客を試みました。



survey 05

初点灯から150周年を記念したオリジナルグッズ製作

安乗埼灯台150周年を記念したオリジナルグッズを制作し、イベント時に配布しました。



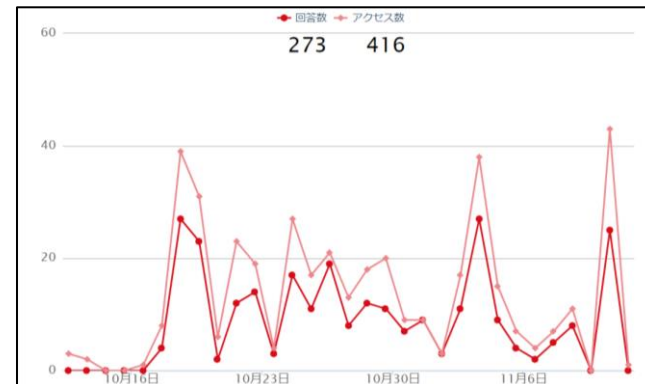
住民や観光客が集う安乗埼灯台

安乗埼灯台の高さや光達距離などの基礎データ、設置経緯、関係者インタビューなどを通じて、安乗埼灯台のストーリー（一般向け紹介文）を作成
※次ページに掲載 ※基礎データ等は15ページ以降



安乗地区について調査

安乗埼灯台の名前にもなっている安乗という地区の名称は、古くからは「畔乗」と言われ、海上交通の難所だったと言われています。安乗地区にはいまでも神事・文化が残っており、かつての栄華を感じさせます。



灯台観光のニーズを調査

灯台観光ニーズに関するWEBアンケート調査及び安乗埼灯台への参観者に対するアンケート調査を実施。安乗埼灯台の知名度や来訪経験、また灯台観光に求められる要素などを明らかにすることができました。



市民ワークショップを開催

海洋文化遺産である灯台を起点とする地域の海と人とのつながりを核に、灯台を活用した地域振興について、議論を交わしました。海の恵みや、漁業と人の営みの繋がりなど様々な意見が出ました。



マルシェで地域に賑わいを

初点灯150周年を記念した、「ライトハウスフェス 海と灯台のある町」を開催し、安乗地区伝統の大漁旗を掲げて走る「大漁旗リレー」を復活させ、マルシェ等を通じて地域の賑わいを創出しました。



初点灯150周年記念グッズ

灯台マルシェの開催時に配布した特製キーホルダーは、安乗埼灯台150周年を記念して製作したオリジナルグッズで、イベントに参加した方々から、カッコいいデザインとして大好評。

安乗埼灯台のストーリー

地域住民や観光客が集う安乗埼灯台

波静かな的矢湾（まとやわん）と太平洋を分ける安乗岬にある灯台。珍しい四角形の灯台ですが、1873年にできたときは、木製の八角形でした。

伊勢～熊野の間で一番早く点灯したのはこの灯台。天気の良い日は富士山が見えることもあります。

灯台に隣接する芝生園地は、安乗地区の中学校跡地を利用した場所です。地域住民の思い出の地として、観光客だけでなく、地域の方々の憩いの場となっています。

灯台横の休憩舎は「灯台カフェ」としてリニューアルオープンし、絶景と地元名物・芋スイーツが観光客から評判になっています。

課題 市場での「灯台観光」ニーズが不明瞭で、 どういった層に特にニーズが高いのかを知りたかった

- ◆ これまでに灯台に「行ったことがある」という「灯台観光」経験者は、中京圏、関西圏ともに51%で、半数の人が訪問経験があることが分かりました。
- ◆ 性別の経験者は、男性が58%で女性の45%を上回っていました。
- ◆ 「灯台観光」経験別では、行ったことがある層の興味度が72%で、行ったことはない層（43%）の1.7倍に達していることから、「灯台観光」経験は灯台への興味を喚起することが分かりました。



施策

中京圏・関西圏の居住者で、三重県、 特に伊勢志摩エリアへの観光客を誘客します

- ◆ 中京圏、関西圏はともに三重県観光にニーズが高く、灯台観光ニーズも同等であることから、両エリアをターゲットとして進めます。
- ◆ 三重県観光経験者、観光意向者は灯台観光へのニーズが高く、さらには三重県内でも伊勢神宮・おかげ横丁をはじめとする伊勢志摩エリアの訪問意向が高いことが分かりました。したがって伊勢志摩エリアの来訪者が、「少し足を延ばして」灯台観光を楽しんでいく観光を創出して、灯台観光経験者を増やしていく手法が適していると考えます。

課題 安乗埼灯台訪問者が、何を目的として足を運び、 どんな問題点を感じているのかを知りたかった

- ◆ 安乗埼灯台への交通手段は94.2%が自家用車・レンタカー。それゆえ道幅の狭さ等アクセス性の悪さへの課題感が高いことが分かりました。
- ◆ 立ち寄り先の満足度としては、安乗埼灯台の満足度は98.5%が肯定的な評価をしているのに対し、安乗埼灯台資料館は41%が「立ち寄っていない」との回答で、資料館の有効活用が課題であることが分かりました。
- ◆ 約半数の47.6%が滞在時間30分未満のショートステイで、1時間を超える滞在は16.8%しかいませんでした。



施策

近隣の宿泊施設連携、バイカー誘致の両面を進め、 灯台参観以外を楽しんでもらう仕掛けを作ります

- ◆ 灯台観光を組み込んだ、新たな旅行商品を地元の宿泊事業者とともに作成し、販売します。
- ◆ 市内に2つ参観灯台があること、またパールロードにバイカーが多く訪れることから、バイカーの聖地として安乗埼灯台をプロデュースします。
- ◆ 灯台参観以外を楽しむイベント開催や、資料館を改修しこれまでになかった時間の過ごし方ができる工夫を凝らします。

課題 来訪者が何を求め灯台に足を運び、 どういう時間の過ごし方をすると満足頂けるのかを知りたかった。

- ◆ 灯台観光の魅力について多い回答は、「陸（岬）と海（波）が織りなす絶景を観ることができること」（83.2%）、ついで「何も無い海と空を眺めていると心が穏やかになり、癒されること」（57.1%）、「日々の暮らしのストレスから開放され、心身ともにリフレッシュできること」（36.6%）と続きました。
- ◆ 灯台観光を進めていくうえでは、海に囲まれることによる「絶景」と「癒し」がキーワードであることが分かりました。



施策

グランドコンセプトは 「海の恵みの感動体験～癒しと絶景の安乗埼灯台」 と設定して施策を推進します

- ◆ 志摩市及び安乗地区の特性を活かした「グランドコンセプト」は、「絶景」＝心をアクティベートさせる要素、「癒し」＝心を鎮めリラックスさせる要素の対極の要素を海から感受することが重要と考え、上記のグランドコンセプトを設定しました。
- ◆ 今後の取組はこのグランドコンセプトに基づき進めていきます。

安乗埼灯台150周年記念 ライトハウスフェス 海と灯台のある町

①初期投資（イニシャルコスト）	②運営費（ランニングコスト）	③収益
<ul style="list-style-type: none"> マルシェ用テント購入費 60,000円 マルシェ運営委託料 300,000円 	<ul style="list-style-type: none"> チラシ作成費 31,136円 シャトルバス運行費 72,100円 会場警備委託料 99,000円 	<ul style="list-style-type: none"> 実証事業のため、マルシェ出店料を0円とした。
360,000円	202,236円	0円

③収益－②運営費

-202,236円

【③-②の検証】

イベント初回ということもあり、マルシェ出展料を0円とした。

マルシェへの出店事業者が10団体あったことから、次年度以降、出展料を徴収することにより、イベントの黒字化も可能。

また、マルシェ運営委託料については、（一社）志摩スポーツコミッションに委託したが、地域と協同してイベントを実施したことで、ノウハウ等を蓄積することができた。

今後の自走化に向けて、安定的な運営に少し課題が残っているため、令和6年度も継続して行うことで、持続可能な運営体制の構築を目指す。

安乗地区伝統の大漁旗リレーが復活！！初点灯150周年記念イベント【ライトハウスフェス 海と灯台のある町】を開催します！

2023/10/24 10:30
プレスリリース



PR TIMES

海と日本プロジェクト広報事務局

2023年11月11日（土） 10時～16時 / 場所：安乗岬園地

安乗埼灯台観光活性化推進コンソーシアムは、2023年11月11日（土）に「ライトハウスフェス 海と灯台のある町」を開催いたします。このイベントは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、灯台を中心に地域の海の記憶を掘り起こし、地域と地域、異分野と異業種、日本と世界をつなぎ、新たな海洋体験を創造していく「海と灯台プロジェクト」の助成を受けて実施します。



PR TIMES

海と日本プロジェクト広報事務局

2023年11月11日 【場所】安乗埼灯台 など

安乗埼灯台観光活性化推進コンソーシアムは、安乗埼灯台の初点灯150周年を記念し、2023年11月11日（土）に、安乗埼灯台とその周辺エリアの活性化を目的として「ライトハウスフェス 海と灯台のある町」を開催いたしました。このイベントは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、灯台を中心に地域の海の記憶を掘り起こし、地域と地域、異分野と異業種、日本と世界をつなぎ、新たな海洋体験を創造していく「海と灯台プロジェクト」の助成を受けて実施したものです。



総PV数：695

のべ62媒体

調査検証をふまえた 今後の展開案

事業背景1

ポテンシャル

- ◆ 安乗埼灯台のある安乗地区は、歴史的に交通の要衝として重要な地であり、安乗文楽をはじめとし、三番叟、しめ切り神事等の文化・芸能が多く残されている他、安乗ふぐをはじめとする豊かな海産物に恵まれている地でもあります。
- ◆ 安乗埼灯台と安乗地区を活性化するため、地元の事業者と住民が中心となって、市民団体「あのりおこし」を組織しました。2023年度のワークショップでも当該団体が中心となり、これからの熱源となっていくことが予想されます。
- ◆ 安乗地区はかつて観光で賑わった場所であり、宿泊施設をはじめとする観光インフラがいまもなお残されています。

事業背景2

私たちが取り組む理由とねらい

- ◆ 安乗埼灯台のみならず、安乗地区にある様々な固有な資源や食の魅力を活かし、それらを組み合わせることでシナジーを創出し、内外の人たちに「愛される」安乗地区を目指します。
- ◆ 安乗地区に埋もれる価値を発掘し、その価値を地域で共有することにより、シビックプライドの造成を進めます。
- ◆ 関心が高い市民のみならず、宿泊施設や漁業関係者等、より多くの「ALL 安乗」の参画による地域活性化を図ります。

事業概要

事業名 「安乗地区観光活性化事業」

- ◆ 夏季・冬季における集客交流イベント「安乗拍子～Anorhythm」、年末イルミネーション～初日の出を楽しむ会等の季節イベントを実施します。
- ◆ 地元宿泊事業者と共同したヘルスツーリズム、朝市巡りツアーなどの地域活性化ツーリズムを催行します

季節イベントの実施



地元宿泊事業者との共同ツアーの催行



安乗港の朝市



安乗埼灯台資料館のビジターセンター化



安乗埼灯台の持続的な観光活用及び活性化に向けた地域プラットフォームの形成と活性化事業（仮）



熱源となる人たち （核となる主体者）

あのりおこし

安乗地区を中心に、地域活性化を目的として活動する団体。



協働する主体者

志摩市観光課

地元行政。地域の様々な関係者や協力者の結節点として、事業の支援を行う。

安乗岬旅館組合

地域の旅館が組織する組合。
三重ブランドにも認定されたあのりふぐで観光客のおもてなしを行う。

外湾漁業協同組合（漁師）

地元の漁業関係者と連携し、あのりふぐや伊勢えび等豊富な志摩を代表する海産物を活用したコンテンツ開発を行う。



協力者

（一社）志摩スポーツコミッション

教育、福祉、観光の分野でスポーツの力を取り入れ、志摩市を盛り上げる取り組みを行う。

公益社団法人燈光会

「灯台のことなら」燈光会。航路標識事業の発達の助成、航路標識事業に関する周知啓蒙、航路標識事業についての調査研究を行っている。

志摩市灯台活用推進協議会

市内に2基ある参観灯台（大王埼灯台、安乗埼灯台）を活用した観光振興や地域活性化を行うため、官民連携によって組織した団体。

①初期投資（イニシャルコスト）	②運営費（ランニングコスト/年額）	③収益（年額）
イベントプロデュースにおける専門家による 助言等企画支援 500,000円	イベント催行費 $200,000円 \times 2 =$ 400,000円	イベント売上 300,000円 テナント料 250,000円
ツアー造成における旅行会社等専門家からの 助言等企画支援 500,000円	企画会議費・什器等購入費 $50,000円 \times 3 =$ 150,000円	ツアー収入 $10,000円/組 \times 20組 =$ 200,000円
1,000,000円	650,000円	750,000円

③収益－②運営費の見込み	100,000円
---------------------	-----------------

【備考】

令和6年度は、安乗埼灯台のビジターセンターとしての拠点整備（施設の在り方、展示物の内容検討等）についても取り組んでいきたい。

海洋文化遺産である灯台を起点とする地域の海と人とのつながりを強化し、地域プラットフォームを構築



「ALL 安乗（地域住民、宿泊施設や漁業関係者等）」で持続可能な地域活性化を図っていく

灯台の価値の再認識

シビックプライドの確立

灯台観光活性化

調査検証資料

安乗埼灯台の基礎データ（所在地・光度・光達距離・高さ等）



- ✓ 登ることができる灯台16基の灯台の1基
- ✓ 「日本の灯台50選」にも選ばれている美しい白亜の灯台
- ✓ 全国的にも珍しい四角形の灯台
- ✓ 2013年に国の登録有形文化財に指定
- ✓ 2023年に初点灯から150年周年を迎えた

所在地	三重県志摩市阿児町
文化財体系	有形文化財/登録有形文化財
参観時間	3月～10月 土日等 9:00～16:30*
	平日 9:00～16:00*
	11月～2月 9:00～16:00*
位置	北緯 34度21分54秒
	東経 136度54分30秒
塗色・構造	白色 塔形（コンクリート造）
灯質	単せん白光、毎15秒に1せん光
光度	380,000カンデラ
光達距離	16.5海里（約31km）
明弧	93度から33度まで
高さ	地上から構造物の頂部まで：15m
	平均水面上から灯火まで：35m
	地上から灯火まで：13m
点灯年月日	明治6年4月1日

安乗埼灯台の歴史（八角形の初代木造灯台）



およそ330年前の延宝9年（1681年）、徳川幕府が船の道しるべとして「燈明堂」が建設。当初は約3mの高さの塔上に油紙で囲った灯籠を置き、この中で菜種油を燃やす仕組みで、風雨の激しい折には薪を燃やしてたといわれている。

同地にイギリス人R.H.ブラントンにより洋式灯台が建てられたのは明治6年(1873年)4月。全国で20番目の灯台で、使用したレンズは我が国初の回転式フレネル式。その後、海蝕等による地盤の崩れによって昭和23年、現在の四角形鉄筋コンクリート造りで建替えられた。

関係者インタビュー（ワークショップ参加者より）

- 安乗埼灯台や灯台資料館を今後、どのように活用していくといいか？
- ➔ 地域の人々が日替わり出店できるフリースペースを！（地域住民）
 - ➔ 灯台を海側から見る灯台クルージングを催行する（観光事業者）
 - ➔ 灯台をつなげるテレビ電話を設置したい（地域住民）
 - ➔ 灯台資料館を人々が集える場所にしたい（地域住民）

- 令和6年度以降、安乗岬園地でどんなイベントがあったらいいか？
- ➔ 音楽と絶景を掛け合わせたライブイベント（地域住民）
 - ➔ 灯台をバックに花火を挙げたい（土産物販売店）
 - ➔ 灯台ウェディングが出来る式場があってもいいかも（地域住民）

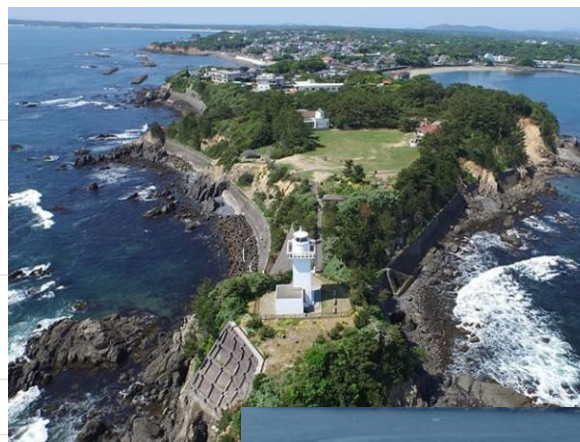
別紙にて詳細な調査内容を記載

1. 基礎調査結果報告

～安乗埼灯台の歴史と背景～

安乗埼灯台（あのりさきとうだい）について

所在地	三重県志摩市阿児町
文化財体系	有形文化財/登録有形文化財
参観時間	3月～10月 土日等 9:00～16:30* 平日 9:00～16:00* 11月～2月 9:00～16:00*
位置	北緯 34度21分54秒 東経 136度54分30秒
塗色・構造	白色 塔形（コンクリート造）
灯質	単せん白光、毎15秒に1せん光
光度	380,000カンデラ
光達距離	16.5海里（約31km）
明弧	93度から33度まで
高さ	地上から構造物の頂部まで：15m 平均水面上から灯火まで：35m 地上から灯火まで：13m
点灯年月日	明治6年4月1日



- ✓ 登ることができる灯台16基の灯台の1基
- ✓ 「日本の灯台50選」にも選ばれている美しい白亜の灯台、四角形が特徴的
- ✓ 2013年に国の登録有形文化財に指定
- ✓ 2023年に初点灯から150年周年を迎える

参考資料

志摩市観光協会
安乗埼旅館組合

<https://www.anorisaki.com/>

<https://anorifugu.biz/anoritoudai.php>

鳥羽海上保安部
燈光会灯台アーカイブ
日本遺産ポータルサイト

<https://www.kaiho.mlit.go.jp/04kanku/toba/a/A-5-anori.html>

<https://www.tokokai.org/tourlight/tourlight08/>

<https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/culturalproperties/result/4293/>

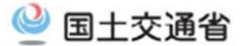
安乗埼灯台の歴史等

安乗埼岬について

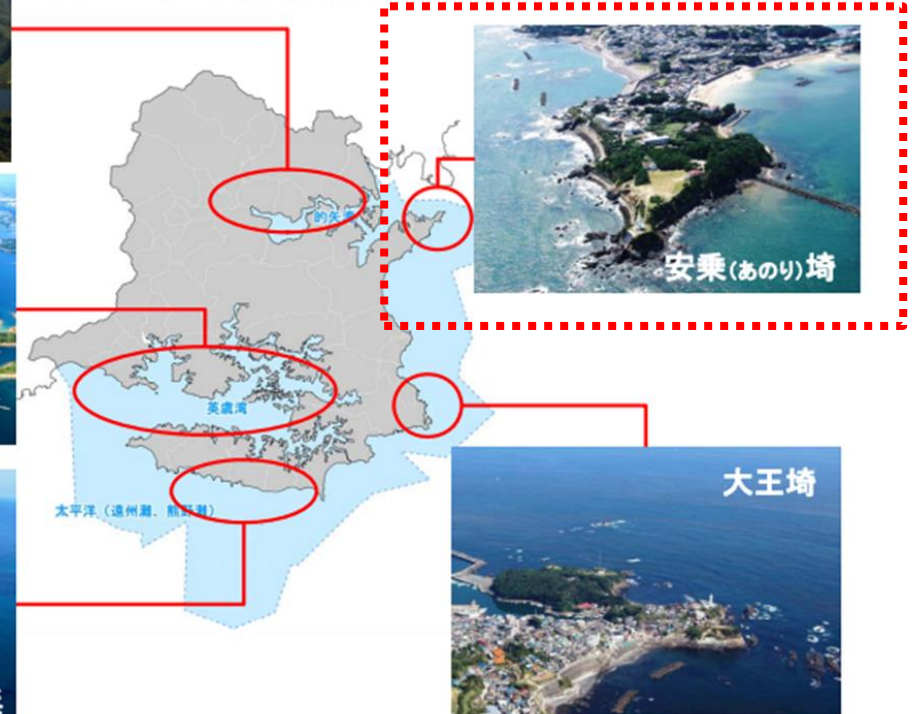
安乗埼は、志摩半島の中央部に東から深く切れ込んだ良港である的矢湾の入口にある岬。波静かな的矢湾と太平洋を分ける。周囲には暗礁が多く、古くから安乗埼、大王崎、鎧崎をもって志摩三崎と称し、海の難所として知られる

灯台に近い安乗集落には安乗文楽という歴史ある人形芝居が伝わる
(重要無形民俗文化財)

志摩市を取り囲む海



志摩市は3つの海(的^{まとや}矢湾・英^{あご}虞湾・太平洋)に面しており、海洋資源に恵まれている。



資料 国土交通省 (地域ごとの取組事例 (三重県志摩市))

安乗地区の歴史

- 平安時代には内膳司領の「**畔乗**御厨」。
- 中世より廻船の寄港地として発達、戦国時代には三浦新介が畔乗城を築いた。その後九鬼嘉隆が志摩国を平定し、城は廃城。
- 安乗崎沖で船が進まなくなり、朝鮮出兵になかなか出陣できなかった九鬼氏が八幡神社（安乗神社）で祈願したところ、出帆できるようになったことから、「**安乗**」の字に改めた、という伝説がある。
- 江戸時代には志摩国答志郡に属し、安乗村として鳥羽藩の配下
- 難破が多発したため、河村瑞賢の建議により、延宝元年（1673年）に安乗灯明台が設置された

安乗埼灯台の歴史等

安乗埼灯台の歴史

およそ330年前の延宝9年（1681年）、徳川幕府が船の道しるべとして「燈明堂」が建設。当初は約3mの高さの塔上に油紙で囲った灯籠を置き、この中で菜種油を燃やす仕組みで、風雨の激しい折には薪を燃やしてたとされている

同地にイギリス人R.H.ブラントンにより洋式灯台が建てられたのは明治6年(1873年)4月。全国で20番目の灯台で、使用したレンズは我が国初の回転式フレネル式。その後、海蝕等による地盤の崩れによって昭和23年、現在の四角形鉄筋コンクリート造りで建替えられた

初代の灯台は当時現存する最古の木造灯台であったことから、旧灯台は解体し横浜の灯台局に移して復元されたのち、現在は東京都品川にある「船の科学館」構内に展示。平成16年度から一般開放を開始している



安乗埼灯台の歴史等

旧・安乗埼灯台



安乗埼灯台は、明治4年(1871)に難所として知られる三重県志摩郡安乗埼に建造された西洋式灯台。昭和23年(1948)の新灯台建設に伴い、記念灯台として港区の浜離宮、後に横浜の第三管区海上保安本部に移設され、昭和48年(1973)船の科学館に寄贈された。わが国に現存する最古の木造灯台だが、建造当時の実物は一部分のみとなっている。

安乗地区周辺の漁業

■あのりふぐ（時期：10月上旬-2月）

伊勢湾を含む遠州灘から熊野灘にかけての海域で漁獲される体重700g以上の天然トラフグのこと。志摩の国漁業組合の安乗漁港を中心に水揚げされることから「あのりふぐ」と呼ばれている。てっさ・てっちり・唐揚げなど、様々な形で提供され、安乗地区の冬の人気食材。

※あのりふぐ：三重ブランド認定



参考 あのりふぐ協会 <https://anorifugu.info/index.php>

■海女漁業

三重県鳥羽市及び志摩市に伝承される女性たちによる素潜り漁の技術。当地の海女漁は、特に伊勢神宮との関係性も含め、古来より継承されてきたと考えられ、現在の従事者数が全国最多地域（約750人）

漁法にはカト^ㇿ・ヲト^ㇿ・リアイの3種。カト^ㇿは海女が直接陸地から泳いで行い、ヲト^ㇿは夫婦・親子等の男女が船に乗り込み漁をしている女性を男性が滑車等を使って引き上げるといった共同作業。リアイは1隻の船に船頭（男性）と複数の海女たちが乗り合わせ、目的の漁場でそれぞれ単独で漁を行う。漁獲物には、アヅ^ㇿを始め、サヅ^ㇿ・トヅ^ㇿ・イガキ^ㇿ・化ヒ^ㇿ・ウ^ㇿ・ナコ^ㇿ・ア^ㇿメ^ㇿ・ヒジキ^ㇿ・テングサ^ㇿ等がある。ほぼ年間を通して漁が行われる

※鳥羽・志摩の海女漁の技術：重要無形民俗文化財H29.3月



参考 国指定文化財データベース
<https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/302/00000942>
志摩市
<https://www.city.shima.mie.jp/kakuka/kyouiku/syogaigakusyusportska/bunkazaimaizobunkazai/1485397545867.html>

安乗地区の文化

■ 安乗文楽・三番叟（国指定重要無形民俗文化財）

安乗では人形芝居を「デコ（木偶）シバイ」と呼び、多くの変遷を経ながら安乗神社の祭礼行事として、400年以上もの長い間伝承されてきました。安乗神社境内舞台上で上演され、喜怒哀楽の表現が素朴で大胆かつ野趣に富むのが特徴

その中で、三番叟は阿児町安乗の「二ワの浜」で正月二日に行なわれる安乗神社の神事の1つ。安乗神社総代と安乗文楽人形芝居保存会の人々が、「三番叟」の舞を奉納し、1年の大漁・海上安全・五穀豊穰を祈願する。

「三番叟」は能楽の演目である「翁」を原型として、歌舞伎、人形浄瑠璃などで演じられるようになり、天下泰平、五穀豊穰を寿ぐおめでたい儀式曲。

起源は、志摩の国主で水軍の将・九鬼嘉隆が、八幡宮に祈願して文禄の役に戦功を得たお礼として、村民に人形芝居を許したものとされる。また、この地はもとの志摩海軍の一拠点として繁昌した港町のため、往時の盛況が人形芝居を生んだと言われ、当初は礼儀的な三番叟を舞って奉納し、漁船や入港する船の海上安全を祈ったものと推測される

参考 JTCO日本伝統文化振興機構 <https://www.jtco.or.jp/bunkakan/?act=detail&id=24&p=0&c=6>
伊勢志摩きらり千選 https://kirari1000.com/www.kirari1000.com.base_data.base_data.php?kirari_cd=00066.html

＜安乗の人形芝居＞



＜「三番叟」の舞＞



■ しめ切り神事（市指定無形民俗文化財）

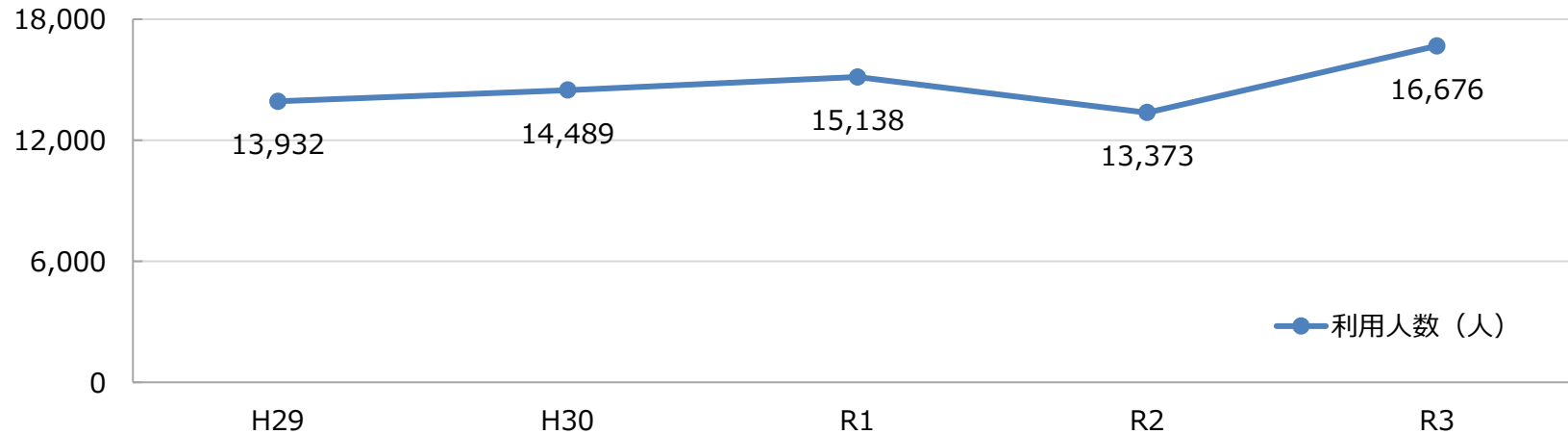
1月10日に安乗神社の参集殿前広場で行われる。五穀豊穰や悪疫退散、大漁を祈願する神事で、獅子舞神事のあと「加用」と呼ばれるかみしも姿の若者2人が「一の太刀」「二の太刀」として、長さ30メートル、中心の太さ1.5メートルの大しめ縄（「にしめをはやす」といって大蛇になぞらえたしめ縄）を、縁起が良いとされる奇数回になるよう切り続けられる。住民は断ち切られたしめ縄のワラをお守りとして持ち帰る



参考 志摩の文化財、志摩市HP <https://www.city.shima.mie.jp/kakuka/seisakusuishin/hisyo/topics/h29dekigoto/1484098270063.html>

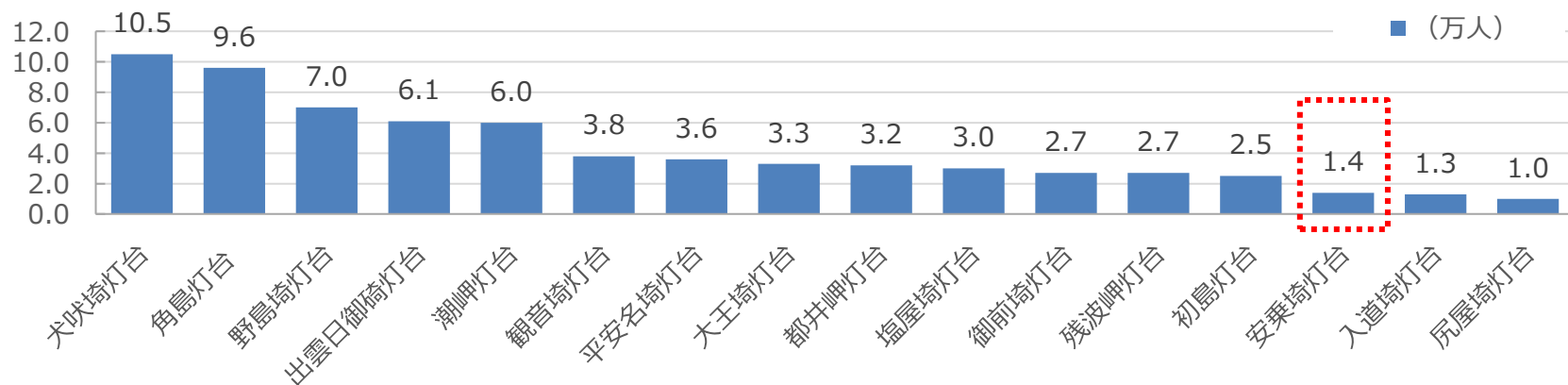
安乗埼灯台の利活用状況等 ①利用実績等

■安乗埼灯台資料館利用者数の推移



参考：志摩市

■全国灯台 H30年度入場者数（16か所 計68万人）



参考：海上保安庁「灯台の現状と活用事例」(<https://www.kaiho.mlit.go.jp/mission/files/04siryu2.pdf>)

安乗埼灯台の利活用状況等 ②近年のトピック等

灯台カフェ

安乗埼灯台の手前にある安乗岬園地には広大な芝生広場があり、園内には「灯台カフェ」が2020年12月にオープン。
この地方に伝わる煮切り干芋製法で作る干し芋の「きんこ芋」は海女や漁師のスタミナ源として古くから食されてきたもので、このきんこ芋を使ったスイーツ等の絶品グルメを堪能できる。



参考：きんこ芋工房上田商店灯台カフェ <https://uedashoten.jp/>
海と灯台プロジェクト <https://toudai.uminohi.jp/report/post-4376/>

音楽フェスティバル「あのり拍子」

志摩市阿児町安乗岬園地で2022年11月、音楽フェスティバル「あのり拍子-anorhythmアノリズム-」が初開催。古くから自然と人との共生をしてきた人口1,500人ほどの小さな漁村「安乗」の突端に位置する安乗岬を舞台に、地元の有志達と共に踊りと音楽を通して安乗を体感する小さな野外フェスティバル
安乗の民俗や芸能、食をテーマに、重要無形民俗文化財の安乗人形芝居による展示やワークショップ実施。安乗の海女によるトークショーやワークショップも開催。



参考：志摩市観光協会サイト <https://www.kanko-shima.com/event/3450/>
志摩市PRESS RELEASE https://www.city.shima.mie.jp/material/files/group/3/20221028_teireishichokou4.pdf

安乗埼灯台の利活用状況等 ②近年のトピック等

灯台擬人化プロジェクト

『燈の守り人(あかりのもりびと)』プロジェクトは、日本全国の灯台を擬人化したオリジナル・エンターテインメント。各キャラクターは、それぞれの灯台が実際に有する歴史や文化、エピソードをベースに新たな創作を施し、青二プロダクションによる豪華声優陣によって演じられる。各地の灯台が持つ魅力を丁寧に掘り下げ、オリジナルキャラクター及びストーリーとして昇華することで、灯台ファンはじめ、広い層へと興味を届けることを目指す。

現在、88の灯台キャラクター化（擬人化）に取り組んでおり、全国の灯台を観光資源として活用し、灯台の新たな歴史・文化価値を創出している。

第41弾が安乗埼灯台(三重県志摩市)が登場。キャラクターを赤羽根健治さんが演じ、語り部の長岡叶夜を服部想之介さんが演じる。【夜会】と銘打ち燈の守り人『幻想夜話#41 安乗埼灯台(CV:赤羽根健治)編』をニコニコ生放送にて上映。

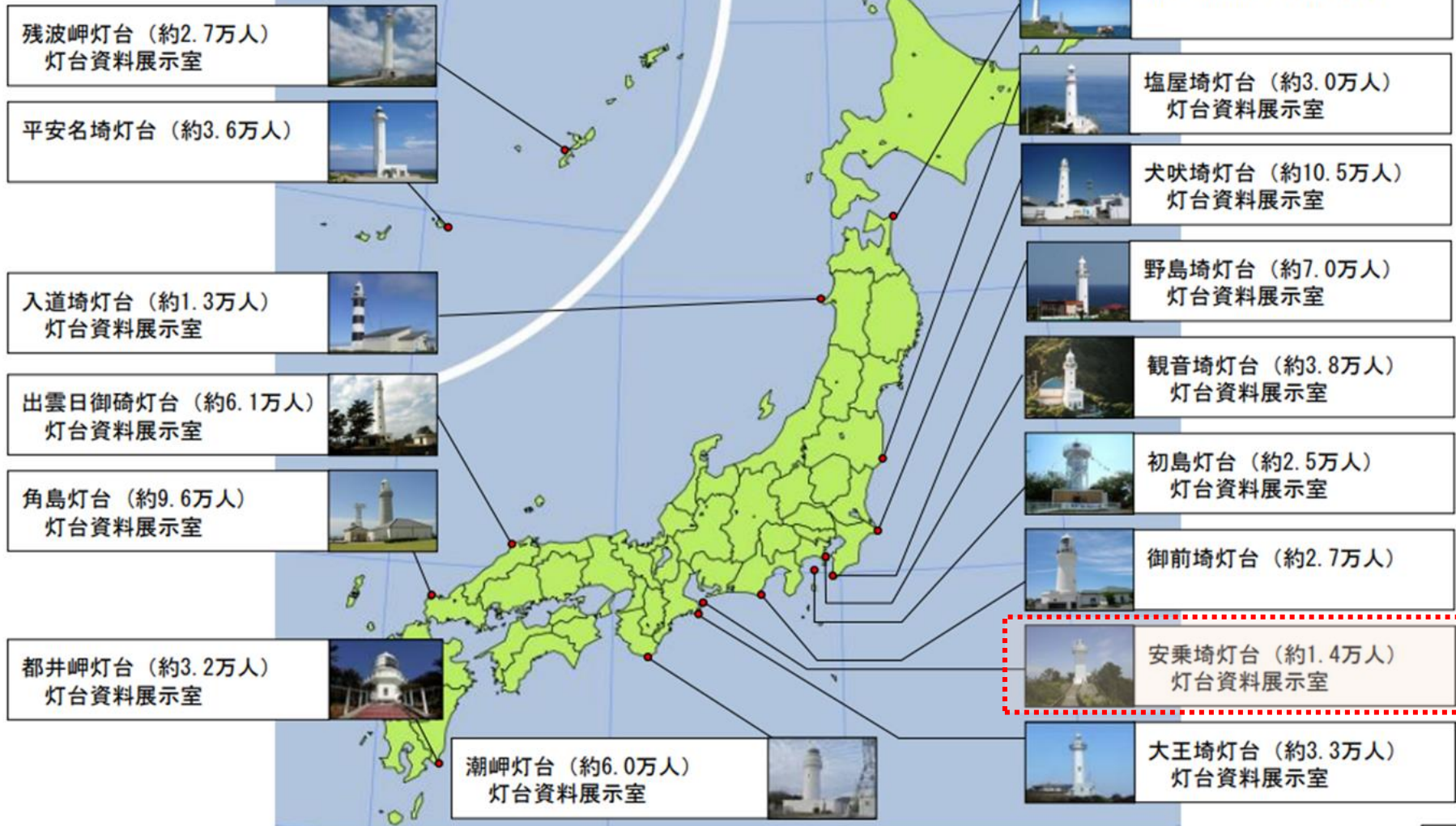
『燈の守り人』プロジェクト：株式会社ワンダーウェブ
(本社：高知県高知市、代表取締役：波房 克典)
【公式サイト】 <https://akarinomoribito.com/>



その他

【参考】 参観灯台

■ 平成30年 年間入場者数 16箇所 計約68万人



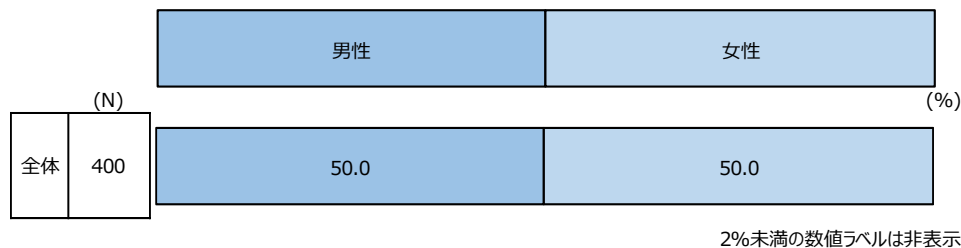
2. アンケート調査結果報告

～灯台観光のニーズ調査～

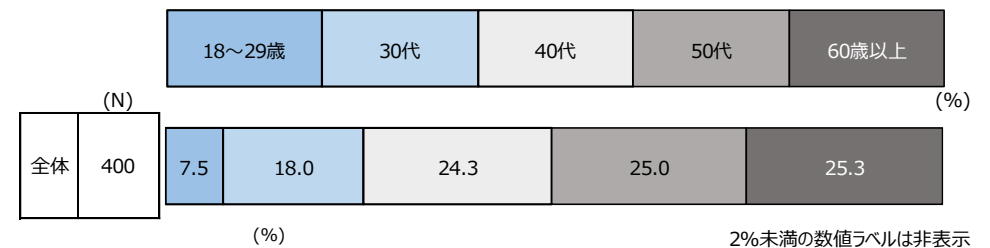
調査概要

- 調査方法：WEB調査
- 調査対象：関西圏（滋賀県、大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県）及び中京圏（愛知県、岐阜県、三重県）在住の18歳以上の男女
- サンプル数：関西圏200サンプル、中京圏200サンプル
計400サンプル（性・年代均等割付）
- 調査期間：2023年10月2日（月）～10月5日（木）
- 回答者プロフィール

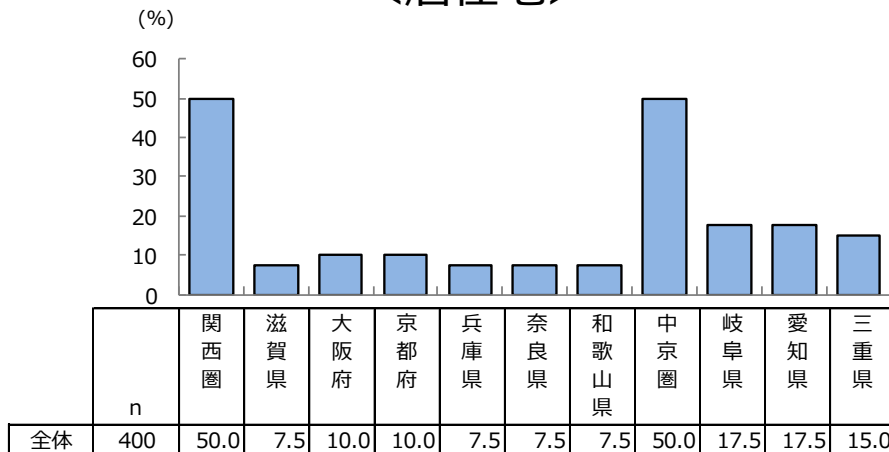
<性別>



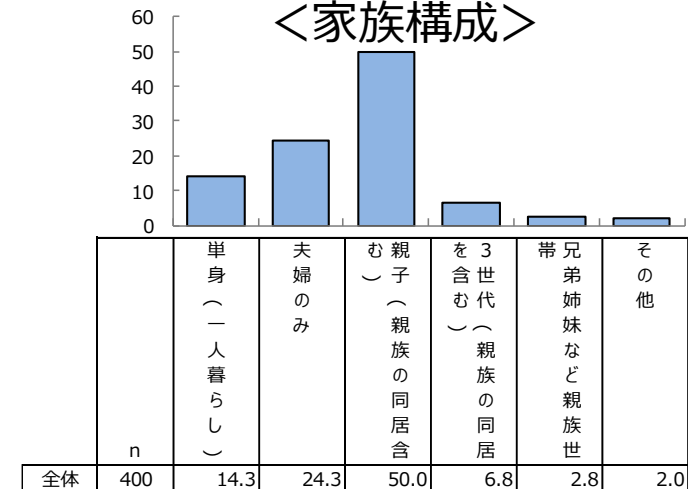
<年代>



<居住地>



<家族構成>



調査結果

(1) 三重県観光旅行経験

- 三重県観光旅行経験者（「行ったことがある」）は82%。
- 中京圏居住者の旅行経験は84%で、関西圏居住者（80%）をやや上回る。

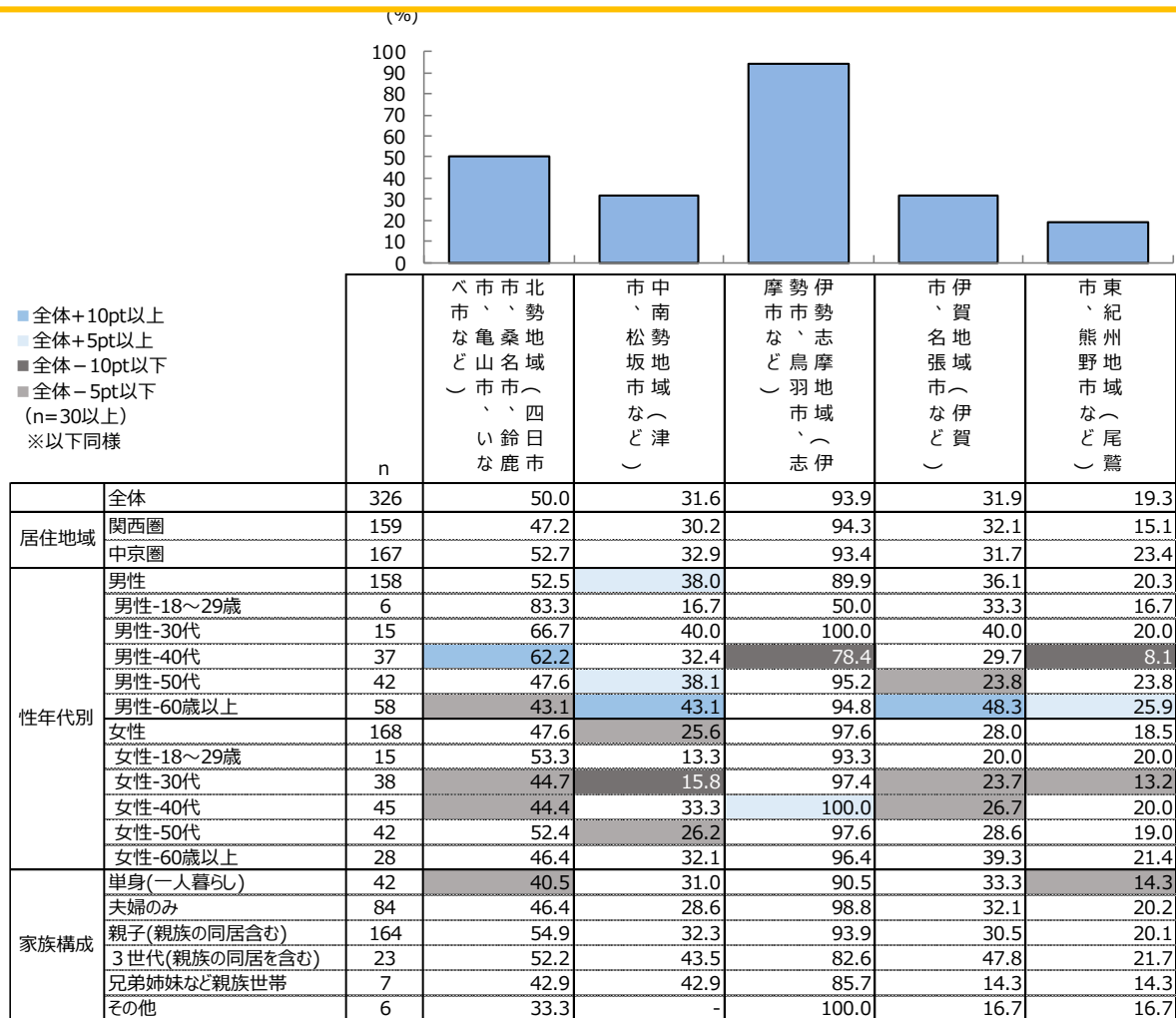
			行ったことがある	行ったことはない
			(N)	(%)
居住地域	全体	400	81.5	18.5
	関西圏	200	79.5	20.5
	中京圏	200	83.5	16.5
性年代別	男性	200	79.0	21.0
	男性-18~29歳	12	50.0	50.0
	男性-30代	25	60.0	40.0
	男性-40代	46	80.4	19.6
	男性-50代	49	85.7	14.3
	男性-60歳以上	68	85.3	14.7
	女性	200	84.0	16.0
	女性-18~29歳	18	83.3	16.7
	女性-30代	47	80.9	19.1
	女性-40代	51	88.2	11.8
	女性-50代	51	82.4	17.6
	女性-60歳以上	33	84.8	15.2
	家族構成	単身(一人暮らし)	57	73.7
夫婦のみ		97	86.6	13.4
親子(親族の同居含む)		200	82.0	18.0
3世代(親族の同居を含む)		27	85.2	14.8
兄弟姉妹など親族世帯		11	63.6	36.4
その他		8	75.0	25.0

2%未満の数値ラベルは非表示

調査結果

(2) 三重県観光旅行訪問地域

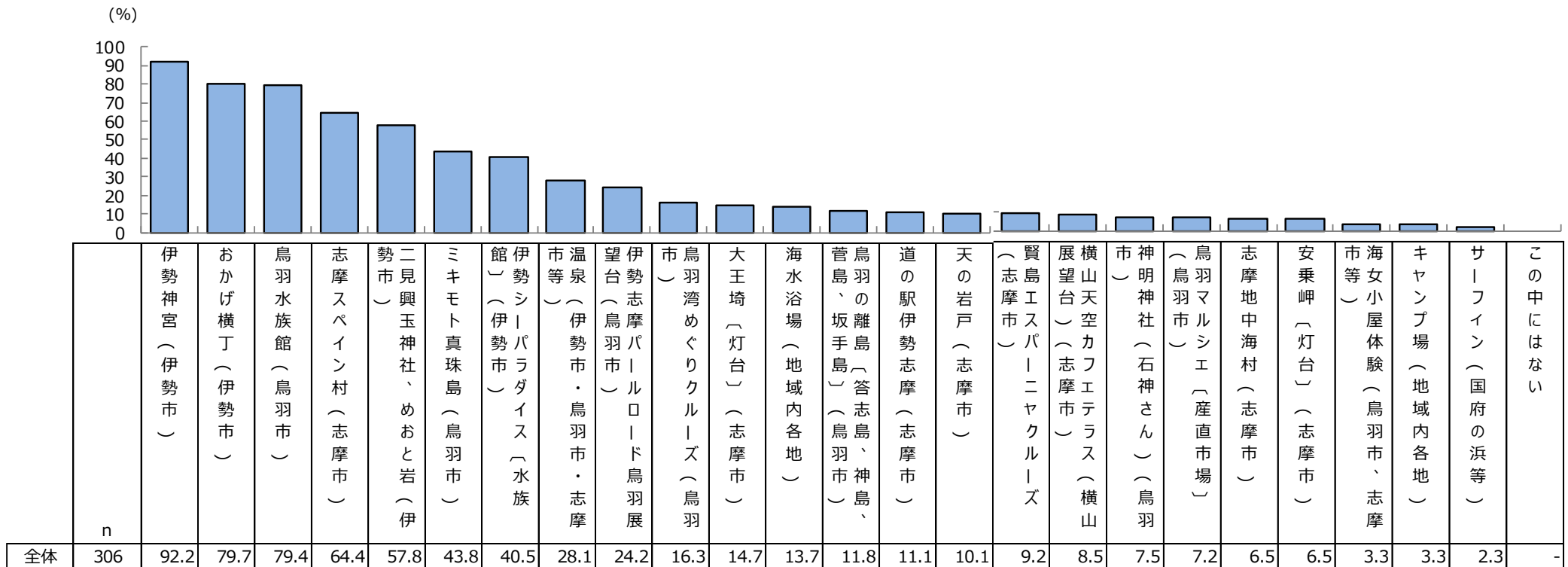
- 訪問地域は、「伊勢志摩地域」が94%で圧倒的に高い。
- 居住地別には関西圏・中京圏居住者とも同様の傾向を示している。



調査結果

(3) 伊勢志摩地域観光スポット訪問経験

- 訪れたことがある観光スポットは、「伊勢神宮」が92%で最も高く、これに「おかげ横丁」「鳥羽水族館」が約8割、「志摩スペイン村」「二見興玉神社、めおと岩」が6割前後で続く。



調査結果

(4) 三重県観光旅行意向

- 観光旅行意向は、「是非行きたいと思う」と「どちらかといえば行きたいと思う」の合計で85%。
- 居住地域別では、関西圏居住者82%、中京圏居住者88%で、中京圏居住者の方がやや高い。

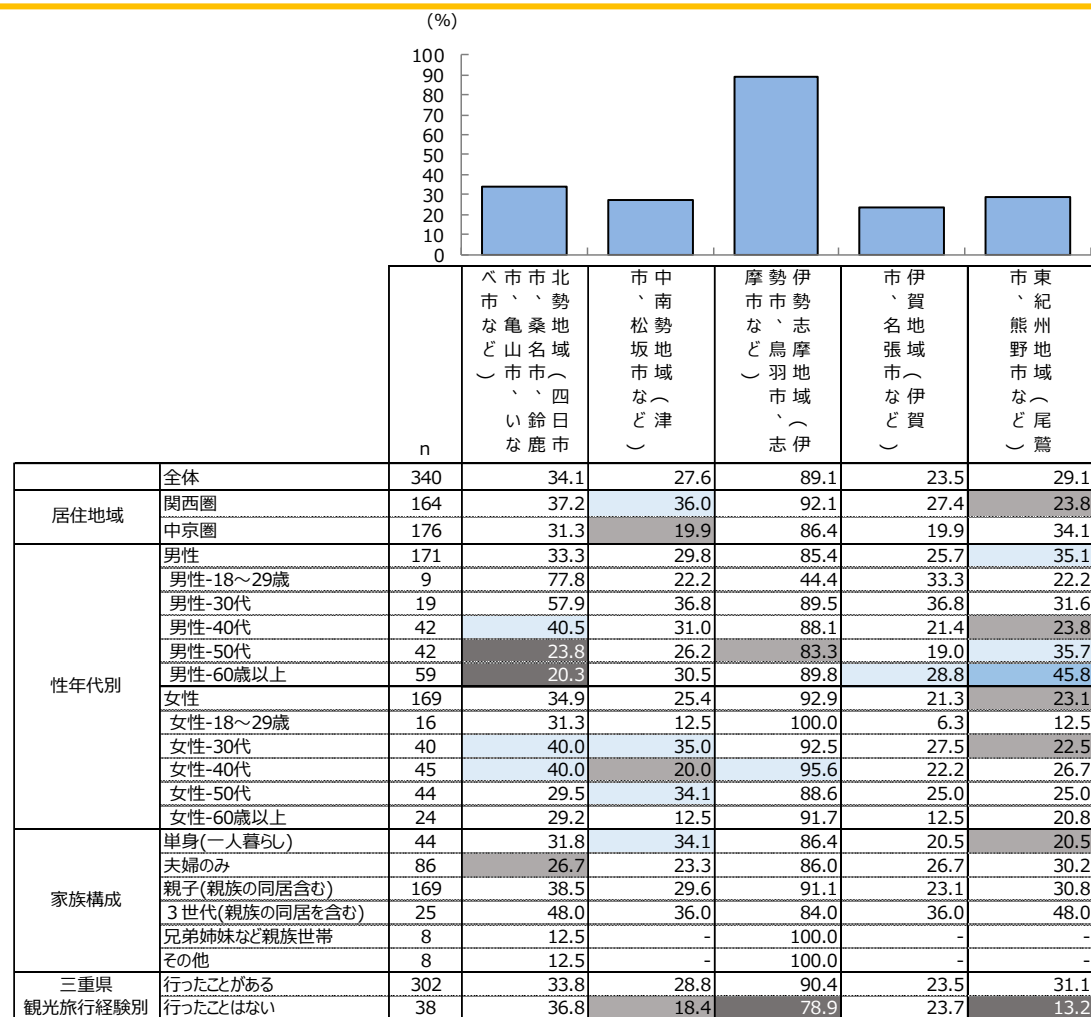
			是非行きたいと思う	どちらかといえば行きたいと思う	あまり行きたいとは思わない	全く行きたいとは思わない	行きたいと思う(計)	行きたいと思わない(計)
			(N)				(%)	
居住地域	全体	400	49.8	35.3	11.5	3.5	85.0	15.0
	関西圏	200	49.0	33.0	16.0	2.0	82.0	18.0
	中京圏	200	50.5	37.5	7.0	5.0	88.0	12.0
性年代別	男性	200	50.5	35.0	10.5	4.0	85.5	14.5
	男性-18~29歳	12	41.7	33.3	8.3	16.7	75.0	25.0
	男性-30代	25	52.0	24.0	12.0	12.0	76.0	24.0
	男性-40代	46	52.2	39.1	6.5	2.2	91.3	8.7
	男性-50代	49	42.9	42.9	12.2	2.0	85.7	14.3
	男性-60歳以上	68	55.9	30.9	11.8	1.4	86.8	13.2
	女性	200	49.0	35.5	12.5	3.0	84.5	15.5
	女性-18~29歳	18	44.4	44.4	11.1	0.0	88.9	11.1
	女性-30代	47	55.3	29.8	10.6	4.3	85.1	14.9
	女性-40代	51	51.0	37.3	9.8	1.9	88.2	11.8
	女性-50代	51	45.1	41.2	11.8	1.9	86.3	13.7
	女性-60歳以上	33	45.5	27.3	21.2	6.1	72.7	27.3
家族構成	単身(一人暮らし)	57	35.1	42.1	15.8	7.0	77.2	22.8
	夫婦のみ	97	56.7	32.0	9.3	2.1	88.7	11.3
	親子(親族の同居含む)	200	50.0	34.5	12.5	3.0	84.5	15.5
	3世代(親族の同居を含む)	27	55.6	37.0	3.7	3.7	92.6	7.4
	兄弟姉妹など親族世帯	11	36.4	36.4	18.2	9.1	72.7	27.3
	その他	8	62.5	37.5	0.0	0.0	100.0	-
三重県観光旅行経験別	行ったことがある	326	58.3	34.4	5.8	1.5	92.6	7.4
	行ったことはない	74	12.2	39.2	36.5	12.2	51.4	48.6

2%未満の数値ラベルは非表示

調査結果

(5) 三重県訪問意向地域

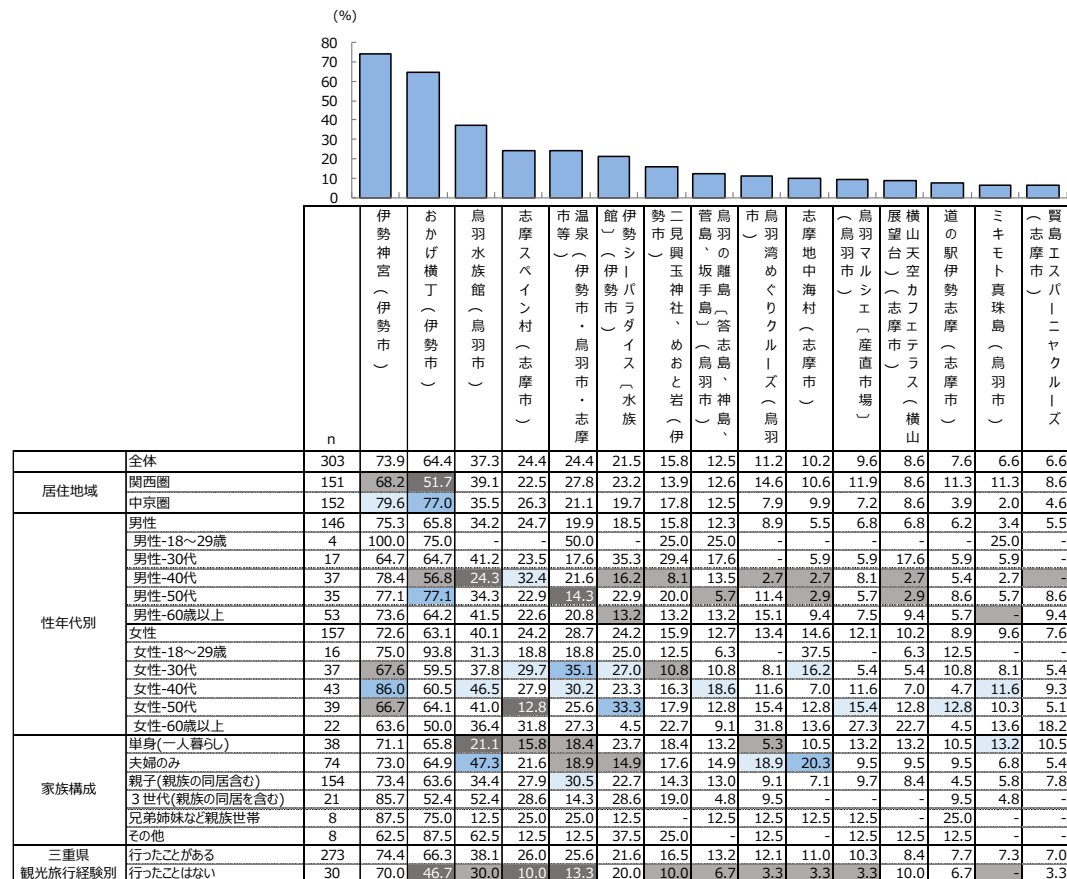
- 行ってみたい地域は、三重県観光旅行経験者の訪問地域と同様、「伊勢志摩地域」が89%で圧倒的に高く、これに「北勢地域」が34%が続いている。
- 関西圏居住者は「中南勢地域」の意向（36%）がやや高く、中京圏居住者は「東紀州地域」の意向（34%）が高めとなっている。



調査結果

(6) 伊勢志摩地域観光スポット訪問意向

- 訪れてみたい観光スポットは、「伊勢神宮」が74%で最も高く、以下、「おかげ横丁」「鳥羽水族館」「志摩スペイン村」「温泉」の順となっている。
- 伊勢志摩地域訪問経験者が訪れたことがある観光スポットの順番と比べると、トップ4の順位は同じだが、「温泉」が8位から5位、「伊勢シーパラダイス」が7位から6位に上昇し、「二見興玉神社、めおと岩」が5位から7位、「ミキモト真珠島」が6位から14位に後退している。



調査結果

(7) 「灯台観光」経験

- これまでに灯台に「行ったことがある」という「灯台観光」経験者は51%。
- 性別の経験者は、男性が58%で女性（45%）を上回る。

			行ったことがある	行ったことはない
		(N)	(%)	
居住地域	全体	400	51.3	48.8
	関西圏	200	51.0	49.0
	中京圏	200	51.5	48.5
性年代別	男性	200	58.0	42.0
	男性-18~29歳	12	16.7	83.3
	男性-30代	25	44.0	56.0
	男性-40代	46	50.0	50.0
	男性-50代	49	55.1	44.9
	男性-60歳以上	68	77.9	22.1
	女性	200	44.5	55.5
	女性-18~29歳	18	33.3	66.7
	女性-30代	47	23.4	76.6
	女性-40代	51	37.3	62.7
	女性-50代	51	62.7	37.3
	女性-60歳以上	33	63.6	36.4
	家族構成	単身(一人暮らし)	57	38.6
夫婦のみ		97	61.9	38.1
親子(親族の同居含む)		200	49.0	51.0
3世代(親族の同居を含む)		27	63.0	37.0
兄弟姉妹など親族世帯		11	45.5	54.5
その他		8	37.5	62.5

調査結果

(8) 「灯台観光」経験回数

- 「灯台観光」経験者の経験回数は、「2～3回」が45%で最も高い。

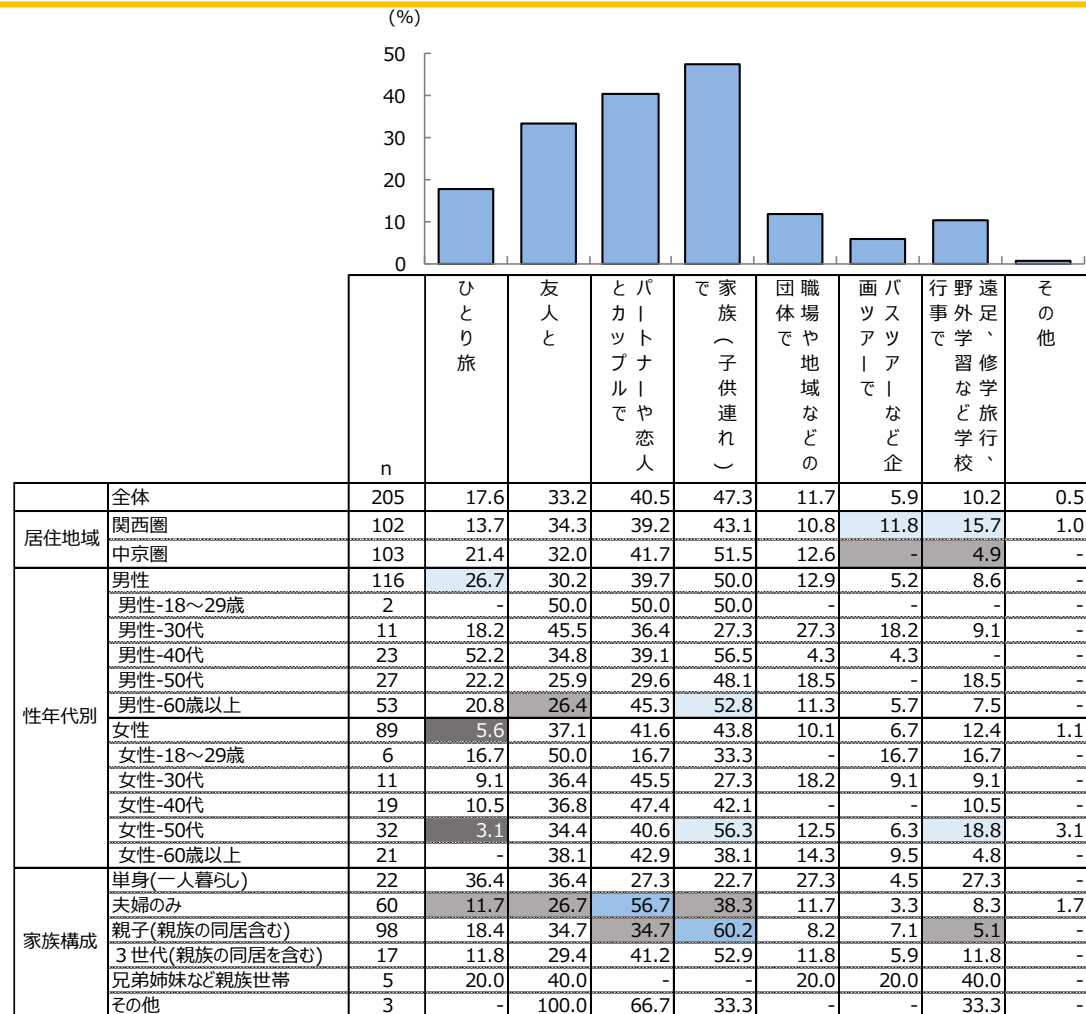
			6回以上	4～5回くらい	2～3回くらい	1回だけ
			(%)			
			(N)			
居住地域	全体	205	21.0	16.6	45.4	17.1
	関西圏	102	17.6	16.7	50.0	15.7
	中京圏	103	24.3	16.5	40.8	18.4
性年代別	男性	116	25.0	16.4	44.8	13.8
	男性-18～29歳	2	50.0		50.0	
	男性-30代	11	18.2	9.1	63.6	9.1
	男性-40代	23	17.4	26.1	43.5	13.0
	男性-50代	27	14.8	18.5	48.1	18.5
	男性-60歳以上	53	34.0		11.3	41.5
	女性	89	15.7	16.9	46.1	21.3
	女性-18～29歳	6	16.7	16.7	33.3	33.3
	女性-30代	11	9.1	36.4	27.3	27.3
	女性-40代	19	15.8	10.5	63.2	10.5
	女性-50代	32	18.8	15.6	50.0	15.6
	女性-60歳以上	21	14.3	14.3	38.1	33.3
	家族構成	単身(一人暮らし)	22	13.6	18.2	54.5
夫婦のみ		60	20.0	15.0	41.7	23.3
親子(親族の同居含む)		98	19.4	15.3	52.0	13.3
3世代(親族の同居を含む)		17	52.9		11.8	23.5
兄弟姉妹など親族世帯		5	60.0		40.0	
その他		3	33.3		33.3	33.3

2%未満の数値ラベルは非表示

調査結果

(9) 「灯台観光」の同行者

- 「灯台観光」の同行者は、「家族（子供連れ）で」（47%）、「パートナーや恋人とカップルで」（41%）が4割台と高く、これらに「友人と」（33%）が続いている。



調査結果

(10) 「灯台観光」に対する興味

- 「大いに興味を感じる」と「まあ興味を感じる」の合計で58%を占め、「あまり興味を感じない」と「全く興味を感じない」の合計（42%）の1.4倍となっている。
- 性別の興味度は男性66%、女性50%で、男性が高い。
- 「灯台観光」経験別では、行ったことがある層の興味度が72%で、行ったことはない層（43%）の1.7倍に達していることから、「灯台観光」経験は灯台への興味を喚起するとみられる。

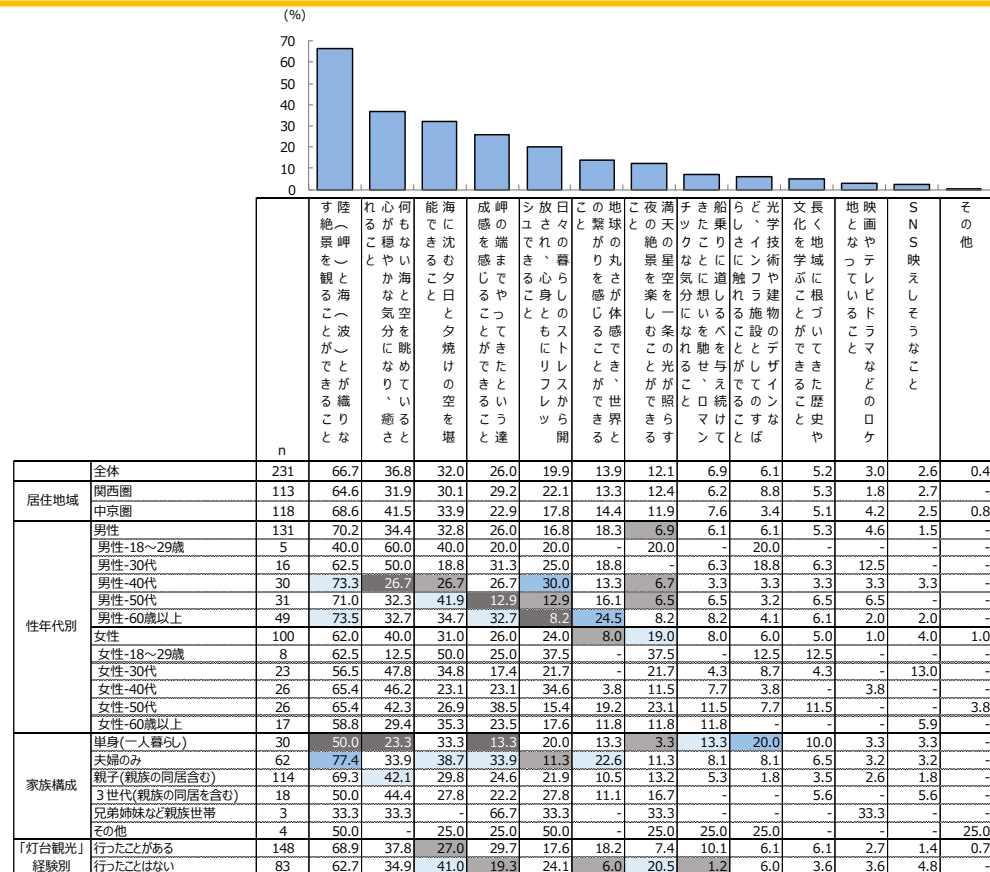
			大いに興味を感じる	まあ興味を感じる	あまり興味を感じない	全く興味を感じない		
			(N)				(%)	
							興味を感じる(計)	興味を感じない(計)
居住地域	全体	400	17.0	40.8	31.8	10.5	57.8	42.3
	関西圏	200	17.5	39.0	34.0	9.5	56.5	43.5
	中京圏	200	16.5	42.5	29.5	11.5	59.0	41.0
性年代別	男性	200	21.0	44.5	26.0	8.5	65.5	34.5
	男性-18~29歳	12	25.0	16.7	25.0	33.3	41.7	58.3
	男性-30代	25	24.0	40.0	16.0	20.0	64.0	36.0
	男性-40代	46	26.1	39.1	32.6	2.2	65.2	34.8
	男性-50代	49	10.2	53.1	26.5	10.2	63.3	36.7
	男性-60歳以上	68	23.5	48.5	25.0	2.9	72.1	27.9
	女性	200	13.0	37.0	37.5	12.5	50.0	50.0
	女性-18~29歳	18	16.7	27.8	33.3	22.2	44.4	55.6
	女性-30代	47	19.1	29.8	36.2	14.9	48.9	51.1
	女性-40代	51	15.7	35.3	39.2	9.8	51.0	49.0
	女性-50代	51	7.8	43.1	37.3	11.8	51.0	49.0
	女性-60歳以上	33	6.1	45.5	39.4	9.1	51.5	48.5
家族構成	単身(一人暮らし)	57	14.0	38.6	31.6	15.8	52.6	47.4
	夫婦のみ	97	22.7	41.2	26.8	9.3	63.9	36.1
	親子(親族の同居含む)	200	15.0	42.0	33.5	9.5	57.0	43.0
	3世代(親族の同居を含む)	27	22.2	44.4	29.6	3.7	66.7	33.3
	兄弟姉妹など親族世帯	11	9.1	18.2	54.5	18.2	27.3	72.7
	その他	8	12.5	37.5	25.0	25.0	50.0	50.0
「灯台観光」経験別	行ったことがある	205	22.9	49.3	23.4	4.4	72.2	27.8
	行ったことはない	195	10.8	31.8	40.5	16.9	42.6	57.4

2%未満の数値ラベルは非表示

調査結果

(11) 「灯台観光」に興味がある理由

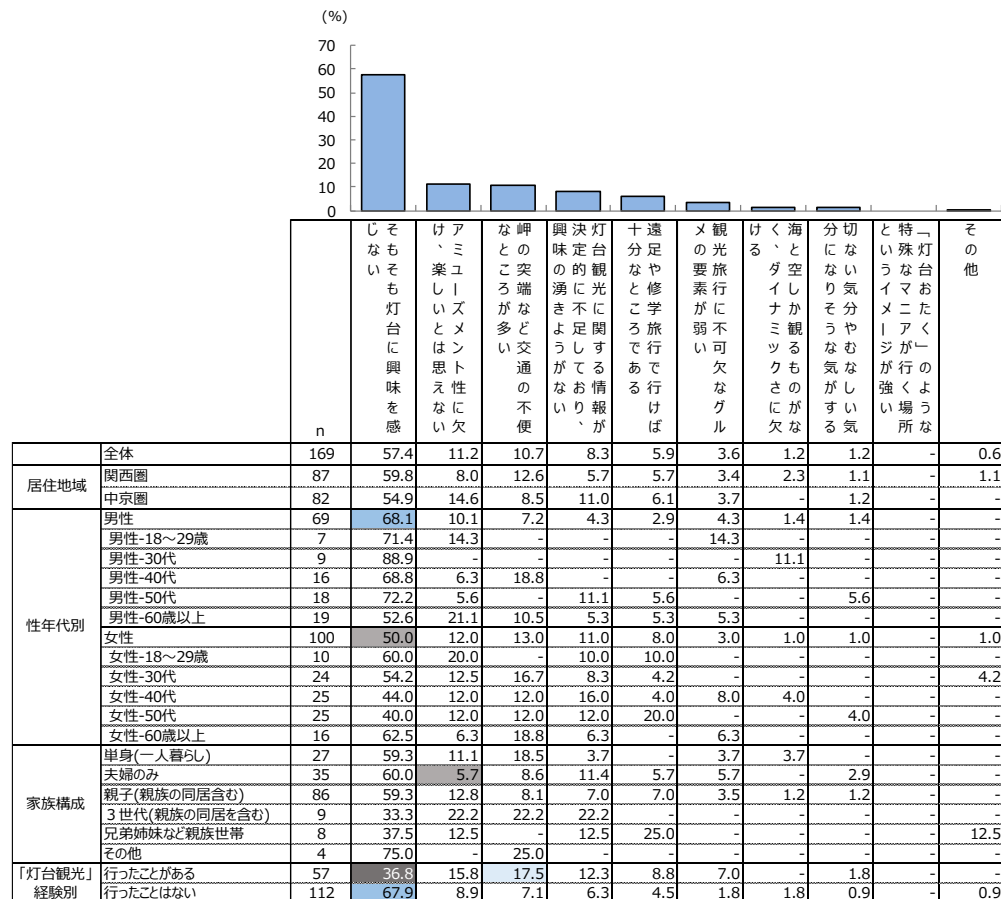
- 「陸（岬）と海（波）とが織りなす絶景を観ることができる」が67%と特に高く、これに「何も無い海と空を眺めていると心が穏やかな気分になり、癒される」「海に沈む夕日と夕焼けの空を堪能できる」が3割台で続いており、「陸と海とが織りなす絶景や海に沈む夕日などが穏やかな気分や癒しをもたらすこと」が主要な理由となっているとみることができる。
- 性別にみると、男性は「絶景を観ることができる」、女性は「心が穏やかな気分になり、癒される」「心身ともにリフレッシュできる」が高めとなっている。



調査結果

(12) 「灯台観光」に興味がない理由

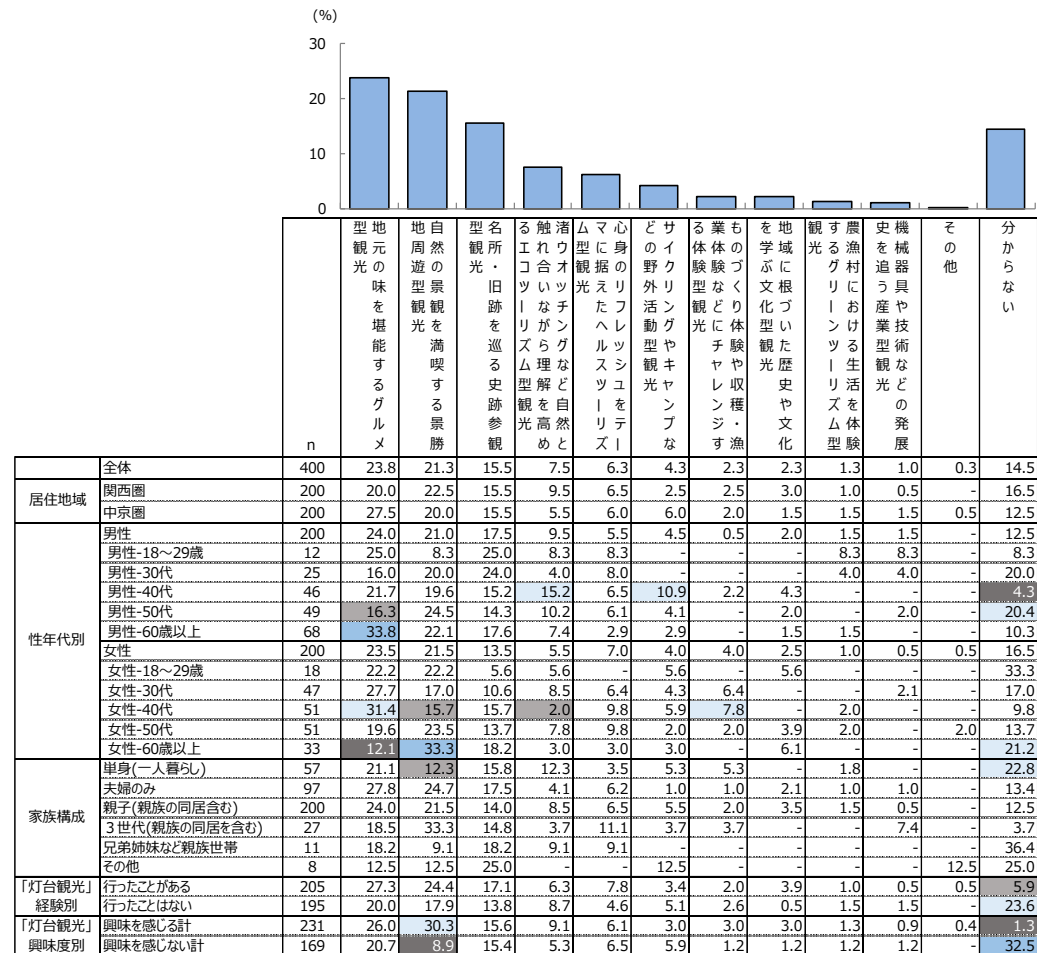
- 「そもそも灯台に興味を感じない」が57%を占めるほか、「アミューズメント性に欠け、楽しいとは思えない」「岬の突端など交通の不便なところが多い」「灯台観光に関する情報が決定的に不足しており、興味の湧きようがない」といった点も指摘されており、“アミューズメント性の欠如、交通の利便性、情報不足”が興味喚起のネックになっている一面があるとみられる。
- 性別にみると、こうした諸点は女性の指摘が高い傾向がみられる。



調査結果

(13) 「灯台観光」の望ましい連携先

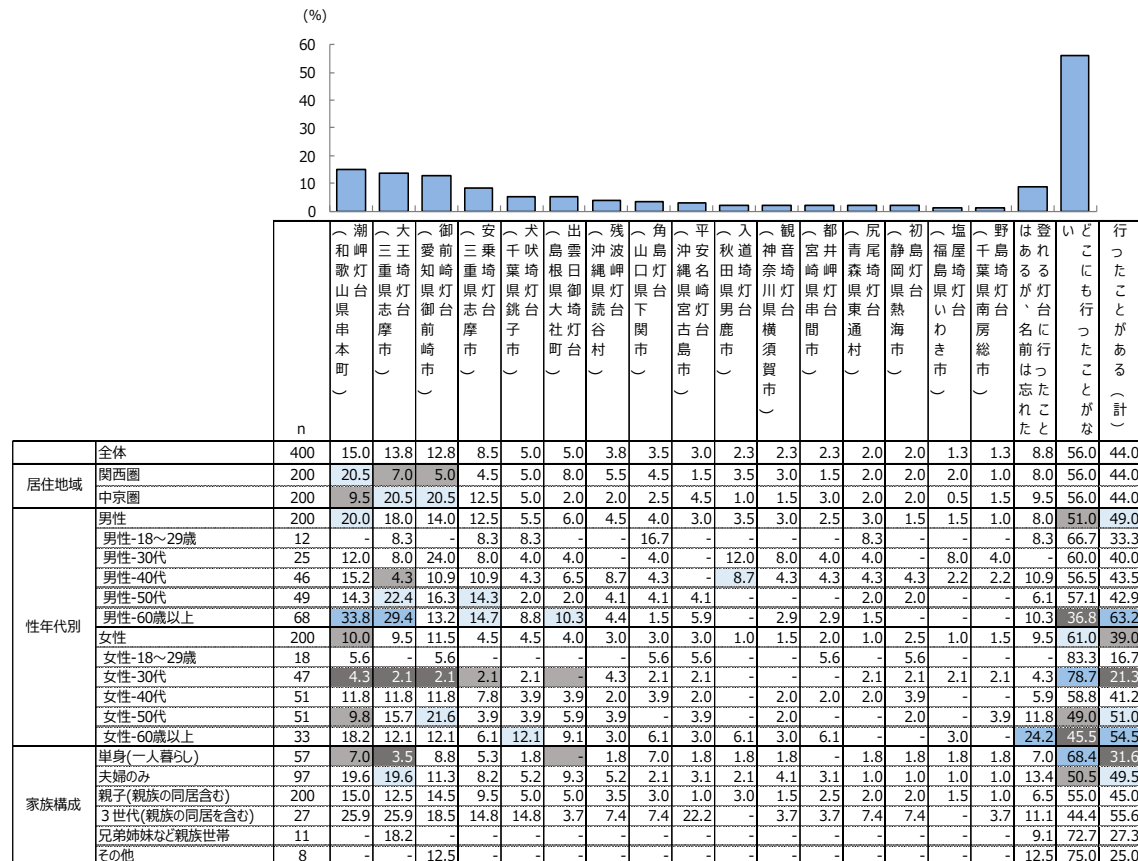
- 「地元の味を堪能するグルメ型観光」(24%)、「自然の景観を満喫する景勝地周遊型観光」(21%)が各2割強で上位となり、これらに「名所・旧跡を巡る史跡参観型観光」(16%)が続いている。性・年代別では、男性60歳以上、女性40代で「グルメ型観光」が高く、女性60歳以上で「景勝地周遊型観光」が高くなっている。



調査結果

(14) 「参観灯台」訪問経験

- 「参観灯台」訪問経験（全体－「どこにも行ったことがない」）は44%。性別の訪問経験は、男性49%、女性39%で、男性の方が高い。性・年代別では、男女とも高年層ほど訪問経験が高く、特に男性60歳以上では63%にのぼる。
- 個別の訪問率は、「潮岬灯台（和歌山県串本町）」「大王埼灯台（三重県志摩市）」「御前崎灯台（愛知県御前崎市）」がトップ3で、これらに「安乗埼灯台（三重県志摩市）」が続いている。



調査結果

(15) 「参観灯台」に登った感想

- 「参観灯台」に登った感想としては、「大変満足した」と「まあ満足した」の合計が88%に達しており、満足度はきわめて高い。
- 性別の「満足した計」は、男性91%、女性83%で、男性の方が高い。

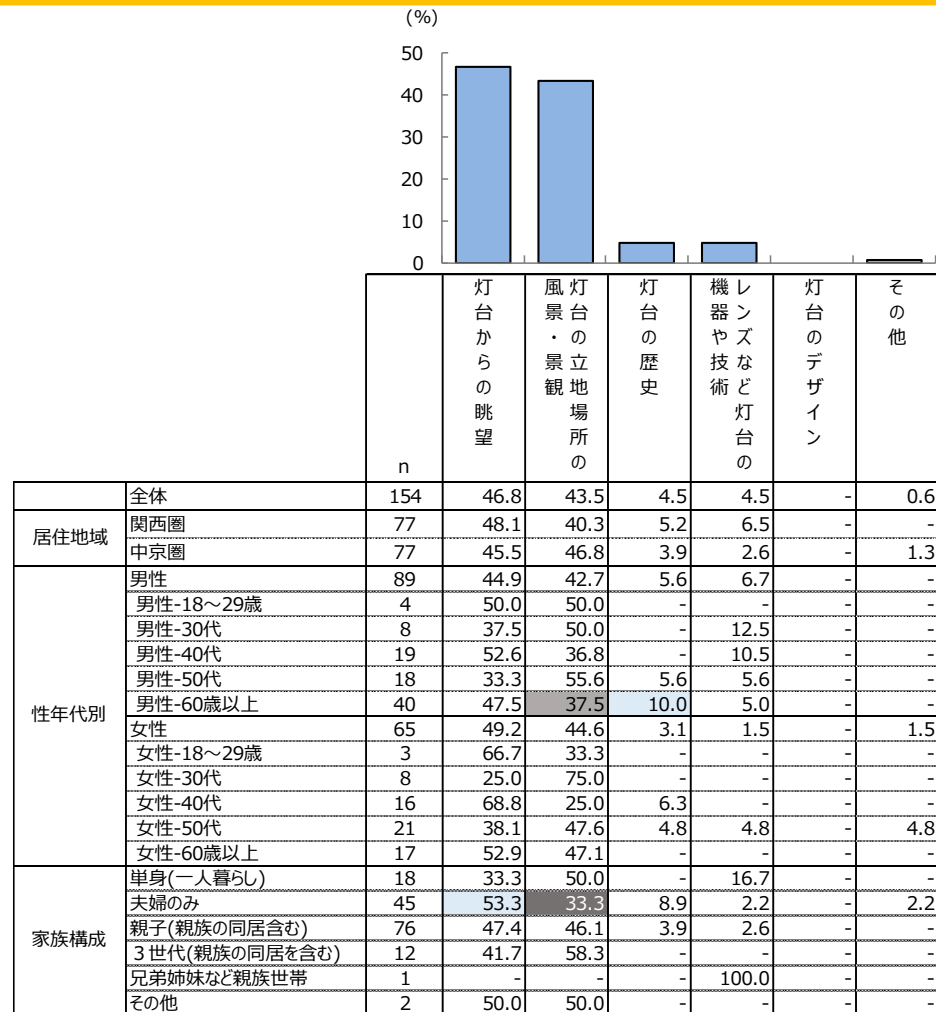
			大変満足した	まあ満足した	あまり満足できなかった	非常に不満だった	満足した(計)	不満だった(計)
			(%)					
居住地域	全体	(N) 176	25.6	61.9	12.5		87.5	12.5
	関西圏	88	27.3	60.2	12.5		87.5	12.5
	中京圏	88	23.9	63.6	12.5		87.5	12.5
性年代別	男性	98	29.6	61.2	9.2		90.8	9.2
	男性-18~29歳	4	75.0		25.0		100.0	-
	男性-30代	10	40.0	40.0	20.0		80.0	20.0
	男性-40代	20	25.0	70.0	5.0		95.0	5.0
	男性-50代	21	14.3	71.4	14.3		85.7	14.3
	男性-60歳以上	43	32.6	60.5	7.0		93.0	7.0
	女性	78	20.5	62.8	16.7		83.3	16.7
	女性-18~29歳	3	100.0				100.0	-
	女性-30代	10	10.0	70.0	20.0		80.0	20.0
	女性-40代	21	23.8	52.4	23.8		76.2	23.8
	女性-50代	26	19.2	61.5	19.2		80.8	19.2
	女性-60歳以上	18	27.8	66.7	5.6		94.4	5.6
家族構成	単身(一人暮らし)	18	27.8	72.2			100.0	-
	夫婦のみ	48	37.5	56.3	6.3		93.8	6.3
	親子(親族の同居含む)	90	21.1	63.3	15.6		84.4	15.6
	3世代(親族の同居を含む)	15	20.0	60.0	20.0		80.0	20.0
	兄弟姉妹など親族世帯	3	33.3	66.7			33.3	66.7
	その他	2	100.0				100.0	-

2%未満の数値ラベルは非表示

調査結果

(16) 「参観灯台」の印象

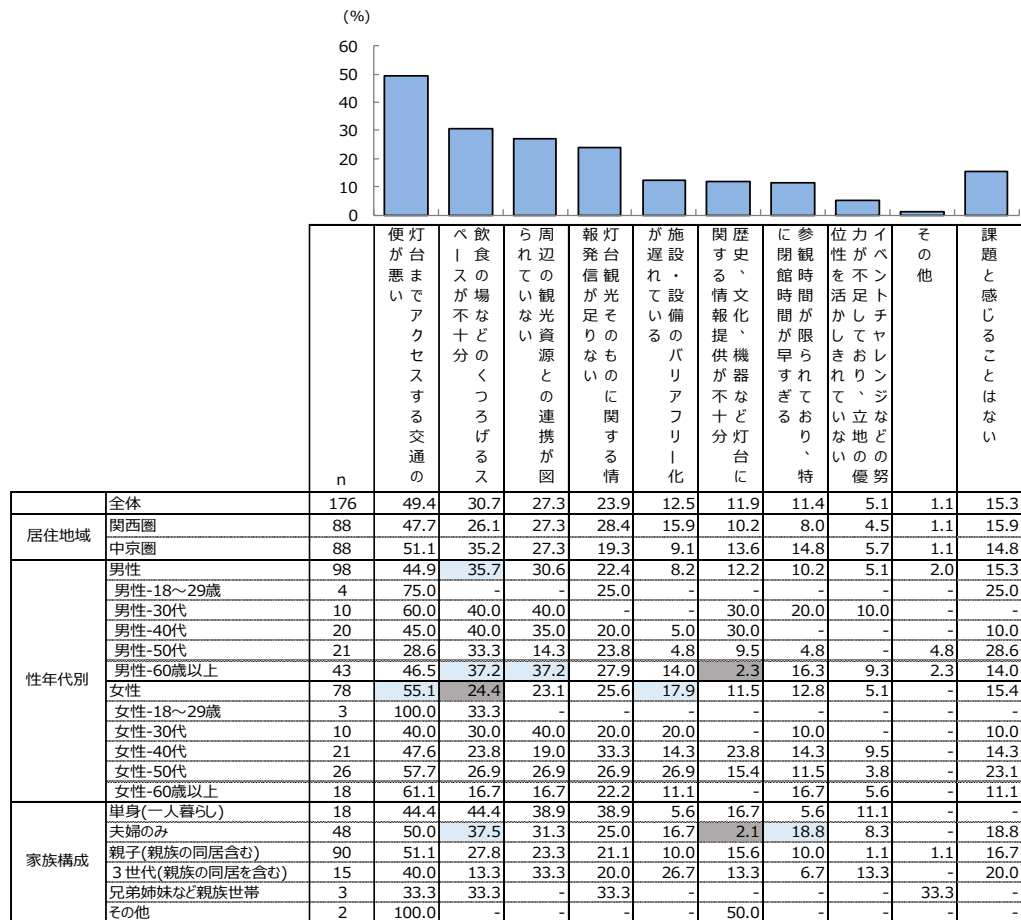
- 灯台に登った印象は、「灯台からの眺望」（47%）と「灯台の立地場所の風景・景観」（44%）にほぼ集約され、「灯台の歴史」や「レンズなど灯台の機器や技術」などの印象は希薄となっている。



調査結果

(17) 「参観灯台」の課題

- 約半数が「灯台までアクセスする交通の便が悪い」と感じているほか、3～4人に1人が「飲食の場などのくつろげるスペースが不十分」「周辺の観光資源との連携が図られていない」「灯台観光そのものに関する情報発信が足りない」と指摘している。
- 前項で“アミューズメント性の欠如、交通の利便性、情報不足”が「灯台観光」の興味喚起のネックになっている一面が垣間見られたが、「参観灯台」訪問経験者ではこれらに点が如実に表れる。



	n	灯台までアクセスする交通の便が悪い	飲食の場などのくつろげるスペースが不十分	周辺の観光資源との連携が図られていない	灯台観光そのものに関する情報発信が足りない	施設・設備のバリアフリー化が遅れている	歴史・文化、機器など灯台に関する情報提供が不十分	参観時間が早すぎたり、特定位性を活かしておられない	イベントチャレンジなどの優待が不足している	その他	課題と感ずることはない	
全体	176	49.4	30.7	27.3	23.9	12.5	11.9	11.4	5.1	1.1	15.3	
居住地域	関西圏	88	47.7	26.1	27.3	28.4	15.9	10.2	8.0	4.5	1.1	15.9
	中京圏	88	51.1	35.2	27.3	19.3	9.1	13.6	14.8	5.7	1.1	14.8
	男性	98	44.9	35.7	30.6	22.4	8.2	12.2	10.2	5.1	2.0	15.3
性年代別	男性-18~29歳	4	75.0	-	-	25.0	-	-	-	-	-	25.0
	男性-30代	10	60.0	40.0	40.0	-	-	30.0	20.0	10.0	-	-
	男性-40代	20	45.0	40.0	35.0	20.0	5.0	30.0	-	-	-	10.0
	男性-50代	21	28.6	33.3	14.3	23.8	4.8	9.5	4.8	-	4.8	28.6
	男性-60歳以上	43	46.5	37.2	37.2	27.9	14.0	2.3	16.3	9.3	2.3	14.0
	女性	78	55.1	24.4	23.1	25.6	17.9	11.5	12.8	5.1	-	15.4
	女性-18~29歳	3	100.0	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性-30代	10	40.0	30.0	40.0	20.0	20.0	-	10.0	-	-	10.0
	女性-40代	21	47.6	23.8	19.0	33.3	14.3	23.8	14.3	9.5	-	14.3
	女性-50代	26	57.7	26.9	26.9	26.9	15.4	11.5	3.8	-	-	23.1
	女性-60歳以上	18	61.1	16.7	16.7	22.2	11.1	-	16.7	5.6	-	11.1
	家族構成	単身(一人暮らし)	18	44.4	44.4	38.9	38.9	5.6	16.7	5.6	11.1	-
夫婦のみ		48	50.0	37.5	31.3	25.0	16.7	2.1	18.8	8.3	-	18.8
親子(親族の同居含む)		90	51.1	27.8	23.3	21.1	10.0	15.6	10.0	1.1	1.1	16.7
3世代(親族の同居を含む)		15	40.0	13.3	33.3	20.0	26.7	13.3	6.7	13.3	-	20.0
兄弟姉妹など親族世帯		3	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-	-	33.3	-
その他		2	100.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-

調査結果

(18) 「安乗埼灯台」の認知

- 「安乗埼灯台」の認知については、「場所や名前、登ることができることなどを含めよく知っていた」9%、「場所や名前は知っていたが、登ることができることは知らなかった」11%、「志摩市に登ることができる灯台があることは知っていたが、場所や名前は知らなかった」11%、「全く知らなかった」69%となっている。

		(N)	場所や名前、登ることができることなどを含めよく知っていた	場所や名前は知っていたが、登ることができることは知らなかった	志摩市に登ることができる灯台があることは知っていたが、場所や名前は知らなかった	全く知らなかった	(%)
	全体	400	9.3	11.3	10.5	69.0	
居住地域	関西圏	200	7.5	12.0	8.5	72.0	
	中京圏	200	11.0	10.5	12.5	66.0	
性年代別	男性	200	13.5	12.0	12.0	62.5	
	男性-18~29歳	12	25.0	8.3		66.7	
	男性-30代	25	20.0	12.0	16.0	52.0	
	男性-40代	46	13.0	13.0	8.7	65.2	
	男性-50代	49	14.3	10.2	10.2	65.3	
	男性-60歳以上	68	13.2	10.3	14.7	61.8	
	女性	200	5.0	10.5	9.0	75.5	
	女性-18~29歳	18	5.6	11.1	11.1	72.2	
	女性-30代	47	4.3	10.6	12.8	72.3	
	女性-40代	51	9.8	9.8	5.9	74.5	
	女性-50代	51	3.9	9.8	5.9	80.4	
	女性-60歳以上	33	12.1	12.1		75.8	
家族構成	単身(一人暮らし)	57	7.0	14.0	7.0	71.9	
	夫婦のみ	97	7.2	9.3	12.4	71.1	
	親子(親族の同居含む)	200	9.5	12.0	10.0	68.5	
	3世代(親族の同居を含む)	27	22.2	3.7	22.2	51.9	
	兄弟姉妹など親族世帯	11	18.2			81.8	
	その他	8	12.5	12.5		75.0	

調査結果

(19) 「安乗埼灯台」訪問意向

- 今後機会があれば「安乗埼灯台」を行ってみたいという「安乗埼灯台」訪問意向は、「是非行ってみたいと思う」と「どちらかといえば行ってみたいと思う」の合計で66%と3人に2人の割合となった。
- 性別の訪問意向は、男性70%、女性63%で、男性の方が高い。
- 性×年代別では、男性40代・60歳以上の訪問意向が7割台と高い。

			是非 行ってみたいと思う	どちらかといえば 行ってみたいと思う	あまり行ってみたい とは思わない	全く行ってみたいと 思わない	行ってみたい と思う (計)	行ってみたい と思わない (計)
			(%)					
居住地	全体	(N) 400	24.8	41.5	21.0	12.8	66.3	33.8
	関西圏	200	25.5	40.0	22.0	12.5	65.5	34.5
	中京圏	200	24.0	43.0	20.0	13.0	67.0	33.0
性年代別	男性	200	25.5	44.5	17.0	13.0	70.0	30.0
	男性-18~29歳	12	16.7	41.7	8.3	33.3	58.3	41.7
	男性-30代	25	32.0	28.0	24.0	16.0	60.0	40.0
	男性-40代	46	26.1	45.7	13.0	15.2	71.7	28.3
	男性-50代	49	18.4	44.9	24.5	12.2	63.3	36.7
	男性-60歳以上	68	29.4	50.0	13.2	7.4	79.4	20.6
	女性	200	24.0	38.5	25.0	12.5	62.5	37.5
	女性-18~29歳	18	27.8	16.7	38.9	16.7	44.4	55.6
	女性-30代	47	27.7	34.0	23.4	14.9	61.7	38.3
	女性-40代	51	25.5	37.3	27.5	9.8	62.7	37.3
	女性-50代	51	19.6	51.0	19.6	9.8	70.6	29.4
女性-60歳以上	33	21.2	39.4	24.2	15.2	60.6	39.4	
家族構成	単身(一人暮らし)	57	14.0	35.1	24.6	26.3	49.1	50.9
	夫婦のみ	97	32.0	39.2	19.6	9.3	71.1	28.9
	親子(親族の同居含む)	200	25.0	43.0	21.0	11.0	68.0	32.0
	3世代(親族の同居を含む)	27	25.9	55.6	7.4	11.1	81.5	18.5
	兄弟姉妹など親族世帯	11	9.1	18.2	63.6	9.1	27.3	72.7
	その他	8	25.0	62.5		12.5	87.5	12.5

2%未満の数値ラベルは非表示

調査結果

(19) 「安乗埼灯台」訪問意向

- 今後機会があれば「安乗埼灯台」を行ってみたいという「安乗埼灯台」訪問意向は、「是非行ってみたいと思う」と「どちらかといえば行ってみたいと思う」の合計で66%と3人に2人の割合となった。
- 性別の訪問意向は、男性70%、女性63%で、男性の方が高い。
- 性×年代別では、男性40代・60歳以上の訪問意向が7割台と高い。

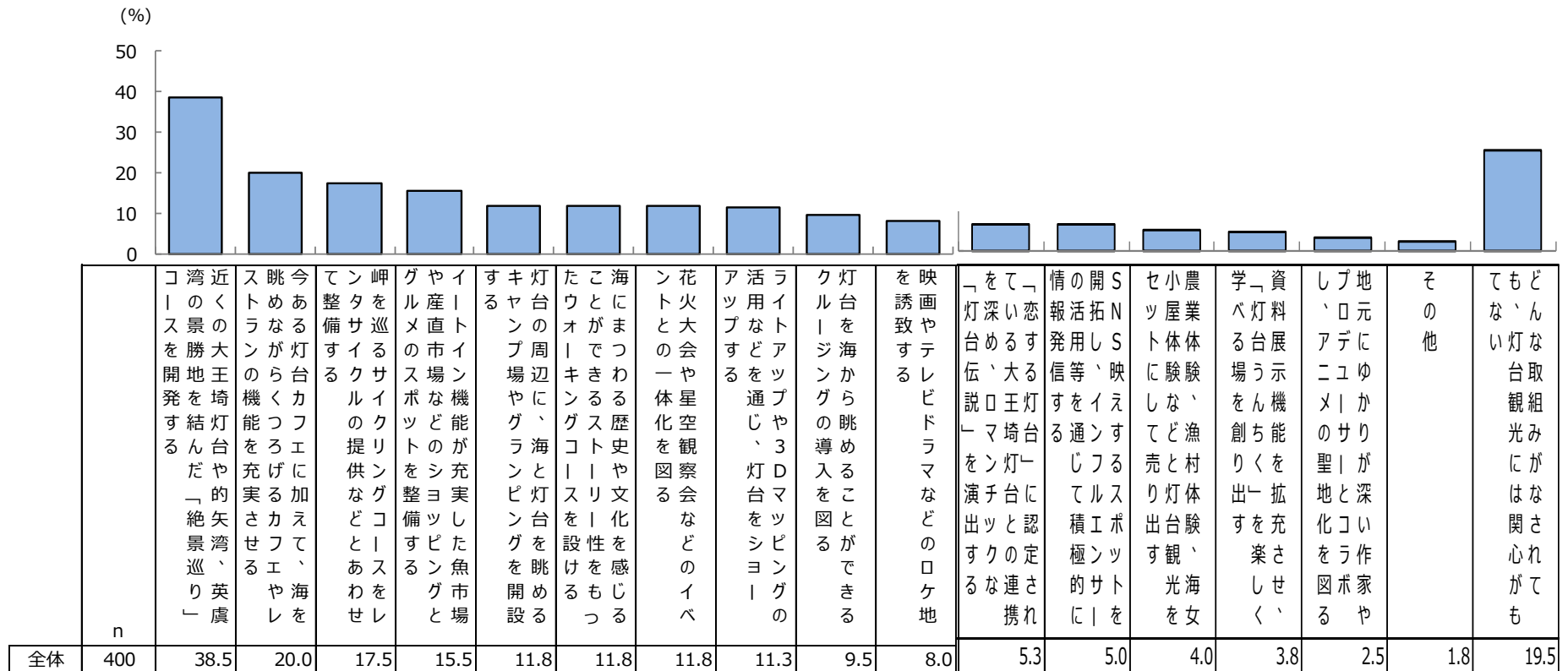
			是非行ってみたいと思う				どちらかといえば行ってみたいと思う		あまり行ってみたいとは思わない		全く行ってみたいと思わない		行ってみたいと思う(計)		行ってみたいと思わない(計)	
			(N)												(%)	
	全体	400	24.8		41.5		21.0		12.8		66.3		33.8			
三重県 観光旅行経験別	行ったことがある	326	28.2		43.6		19.3		8.9		71.8		28.2			
	行ったことはない	74	9.5		32.4		28.4		29.7		41.9		58.1			
三重県 観光旅行意向別	行きたいと思う計	340	28.8		47.1		17.1		7.1		75.9		24.1			
	行きたいとは思わない計	60	10.0		43.3		45.0				11.7		88.3			
「灯台観光」 経験別	行ったことがある	205	32.2		48.3		15.1		4.4		80.5		19.5			
	行ったことはない	195	16.9		34.4		27.2		21.5		51.3		48.7			
「灯台観光」 興味度別	興味を感じる計	231	40.7		53.2		4.8				93.9		6.1			
	興味を感じない計	169	3.0		25.4		43.2		28.4		28.4		71.6			
「参観灯台」 訪問経験別	行ったことがある計	176	33.5		51.7		10.2		4.5		85.2		14.8			
	どこにも行ったことがない	224	17.9		33.5		29.5		19.2		51.3		48.7			

2%未満の数値ラベルは非表示

調査結果

(20) 「安乗埼灯台」に求められる取組み

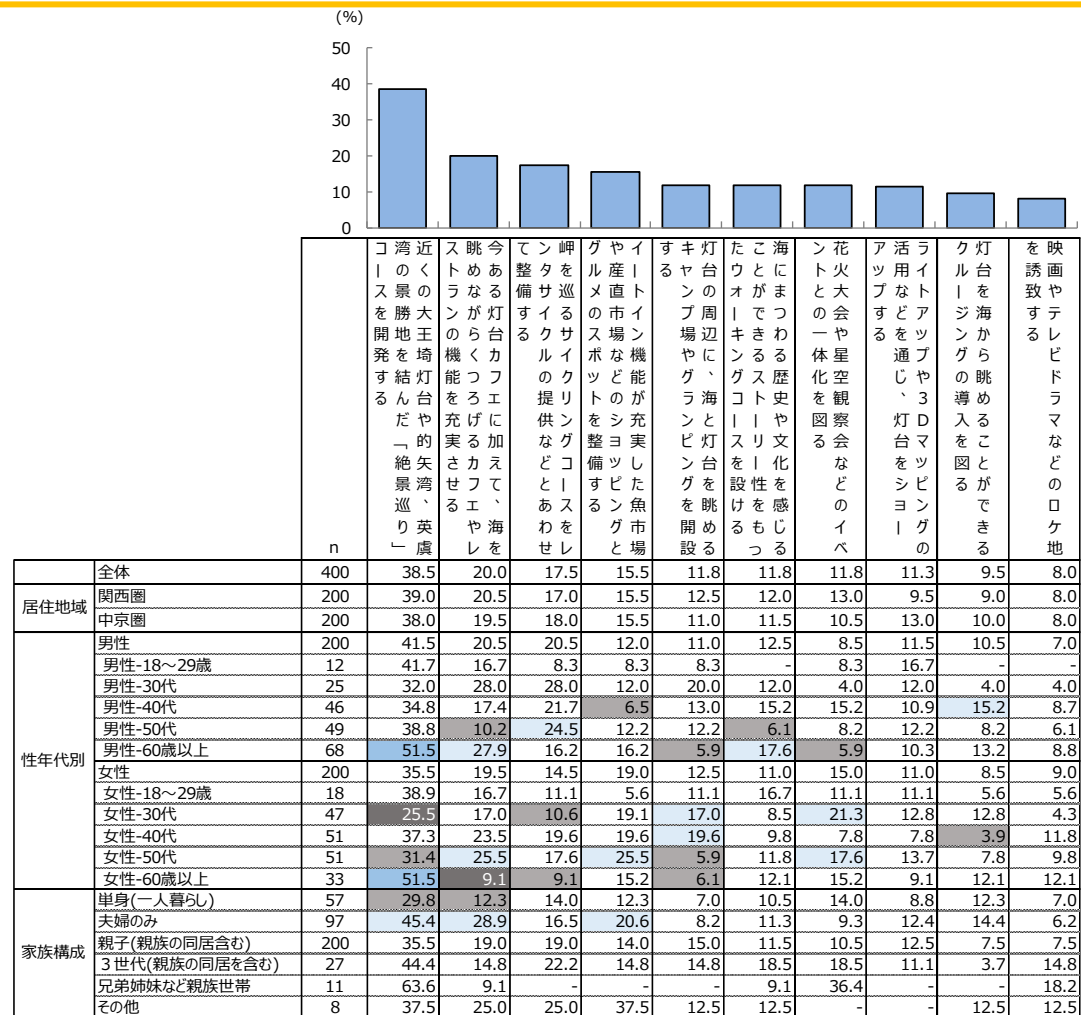
- 安乗埼灯台の魅力を高め、もっと行ってみたい場所にしていくための取組みについては、地域の種々の主体が連携した多様な取組みが必要という意識が高いとみられ、「近くの大王埼灯台や的矢湾、英虞湾の景勝地を結んだ『絶景巡り』コースを開発する」が39%で最も高く、「岬を巡るサイクリングコースをレンタサイクルの提供などとあわせて整備する」(18%)も3番目に高い。



調査結果

(20) 「安乗埼灯台」に求められる取組み

- 性・年代別では、男性60歳以上、女性60歳以上で「『絶景巡り』コースの開発」が高い。また、男性60歳以上、女性50代では3割弱が「くつろげるカフェやレストランの機能の充実」を挙げている。

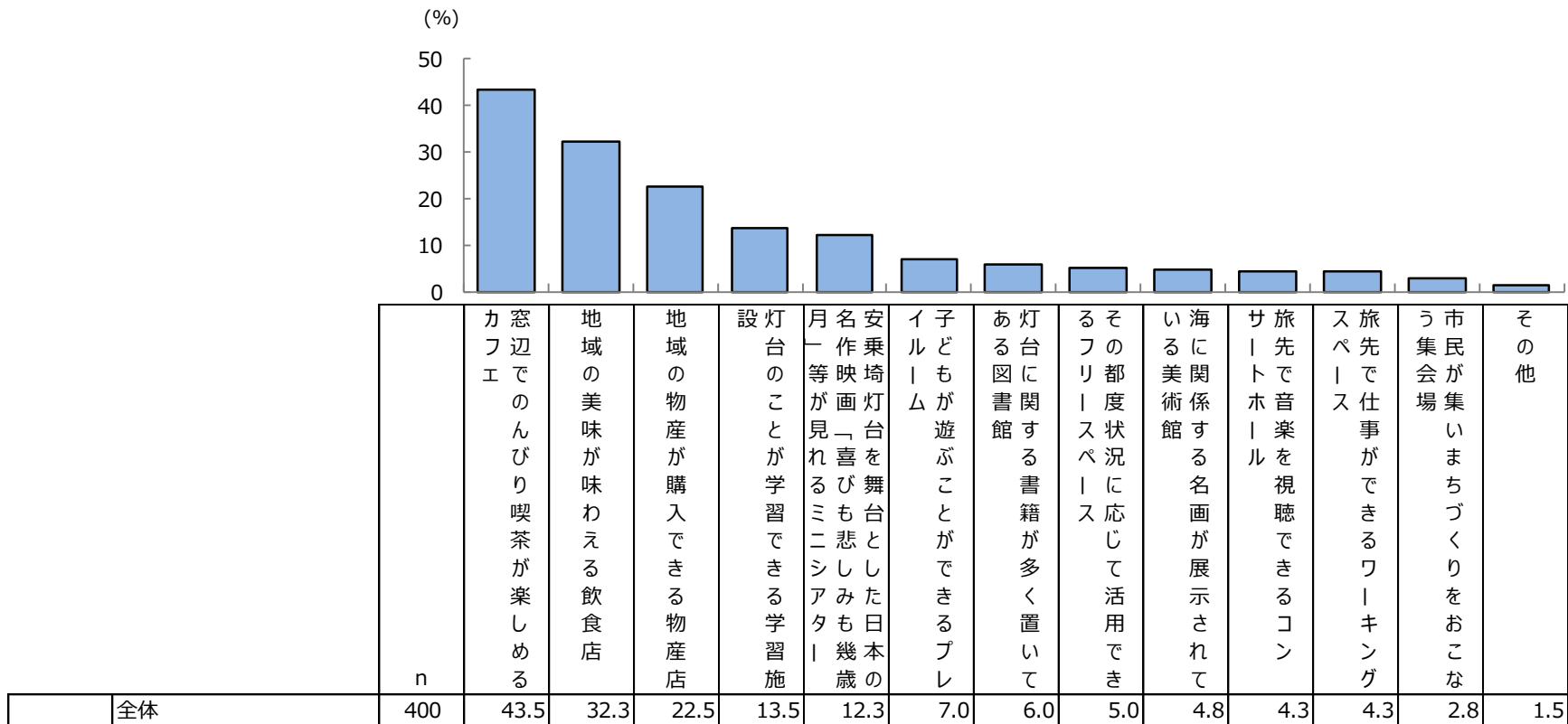


	n	コースの開発	近隣の観光地を結ぶ	眺めることができる	今ある灯台の機能	を整備する	岬を巡るサイクリング	グランドマーケットを整備	イルミネーション	キャンプ場やグラウンドを開発	灯台の周辺に、海と灯台を眺めることができる	海にまつわる歴史や文化を感じる	花火大会や星空観望会などのイベント	ライトアップする	活用などを通じて、灯台をシンギングの	クルーザーやヨットの導入を図る	灯台を海から眺めることができる	映画やテレビドラマなどのロケ地を誘致する	
全体	400	38.5	20.0	17.5	15.5	11.8	11.8	11.8	11.3	9.5	8.0								
居住地域	関西圏	200	39.0	20.5	17.0	15.5	12.5	12.0	13.0	9.5	9.0	8.0							
	中京圏	200	38.0	19.5	18.0	15.5	11.0	11.5	10.5	13.0	10.0	8.0							
性年代別	男性	200	41.5	20.5	20.5	12.0	11.0	12.5	8.5	11.5	10.5	7.0							
	男性-18~29歳	12	41.7	16.7	8.3	8.3	8.3	-	8.3	16.7	-	-							
	男性-30代	25	32.0	28.0	28.0	12.0	20.0	12.0	4.0	12.0	4.0	4.0							
	男性-40代	46	34.8	17.4	21.7	6.5	13.0	15.2	15.2	10.9	15.2	8.7							
	男性-50代	49	38.8	10.2	24.5	12.2	12.2	6.1	8.2	12.2	8.2	6.1							
	男性-60歳以上	68	51.5	27.9	16.2	16.2	5.9	17.6	5.9	10.3	13.2	8.8							
	女性	200	35.5	19.5	14.5	19.0	12.5	11.0	15.0	11.0	8.5	9.0							
	女性-18~29歳	18	38.9	16.7	11.1	5.6	11.1	16.7	11.1	11.1	5.6	5.6							
	女性-30代	47	25.5	17.0	10.6	19.1	17.0	8.5	21.3	12.8	12.8	4.3							
	女性-40代	51	37.3	23.5	19.6	19.6	19.6	9.8	7.8	7.8	3.9	11.8							
女性-50代	51	31.4	25.5	17.6	25.5	5.9	11.8	17.6	13.7	7.8	9.8								
女性-60歳以上	33	51.5	9.1	9.1	15.2	6.1	12.1	15.2	9.1	12.1	12.1								
家族構成	単身(一人暮らし)	57	29.8	12.3	14.0	12.3	7.0	10.5	14.0	8.8	7.0								
	夫婦のみ	97	45.4	28.9	16.5	20.6	8.2	11.3	9.3	12.4	6.2								
	親子(親族の同居含む)	200	35.5	19.0	19.0	14.0	15.0	11.5	10.5	12.5	7.5	7.5							
	3世代(親族の同居を含む)	27	44.4	14.8	22.2	14.8	14.8	18.5	18.5	11.1	3.7	14.8							
	兄弟姉妹など親族世帯	11	63.6	9.1	-	-	-	-	9.1	36.4	-	18.2							
その他	8	37.5	25.0	25.0	37.5	12.5	12.5	-	-	12.5	12.5								

調査結果

(21) 「安乗埼灯台資料館」の今後のあり方

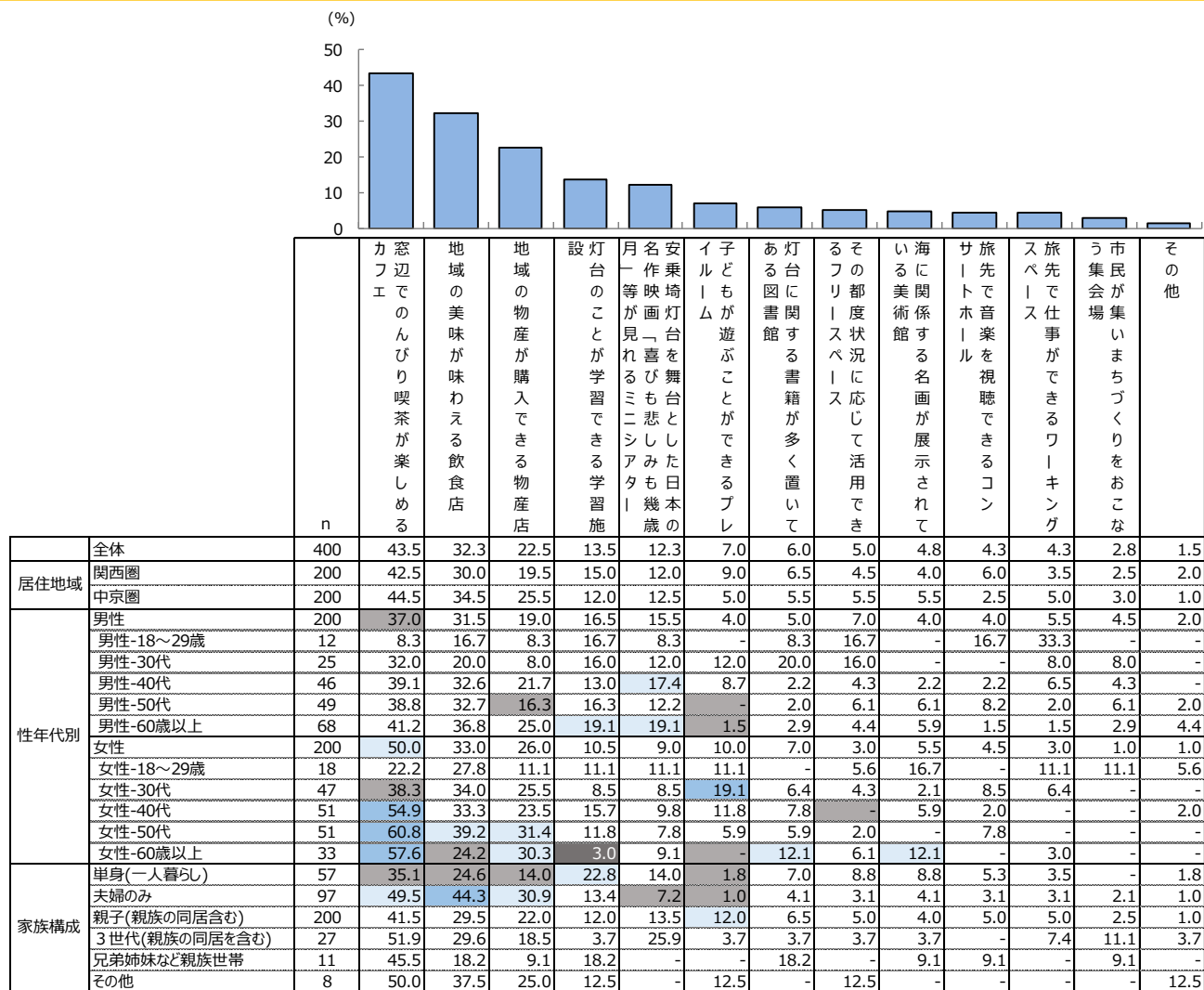
- 「安乗埼灯台資料館」の今後の在り方については、「窓辺でのんびり喫茶が楽しめるカフェ」（44%）、「地域の美味が味わえる飲食店」（32%）、「地域の物産が購入できる物産店」（22%）がトップ3。
- 「安乗埼灯台」に求められる取組みとして上位に位置している「今ある灯台カフェに加えて、海を眺めながらくつろげるカフェやレストランの機能を充実させる」「イートイン機能が充実した魚市場や産直市場などのショッピングとグルメのスポットを整備する」とリンクしている。



調査結果

(21) 「安乗埼灯台資料館」の今後のあり方

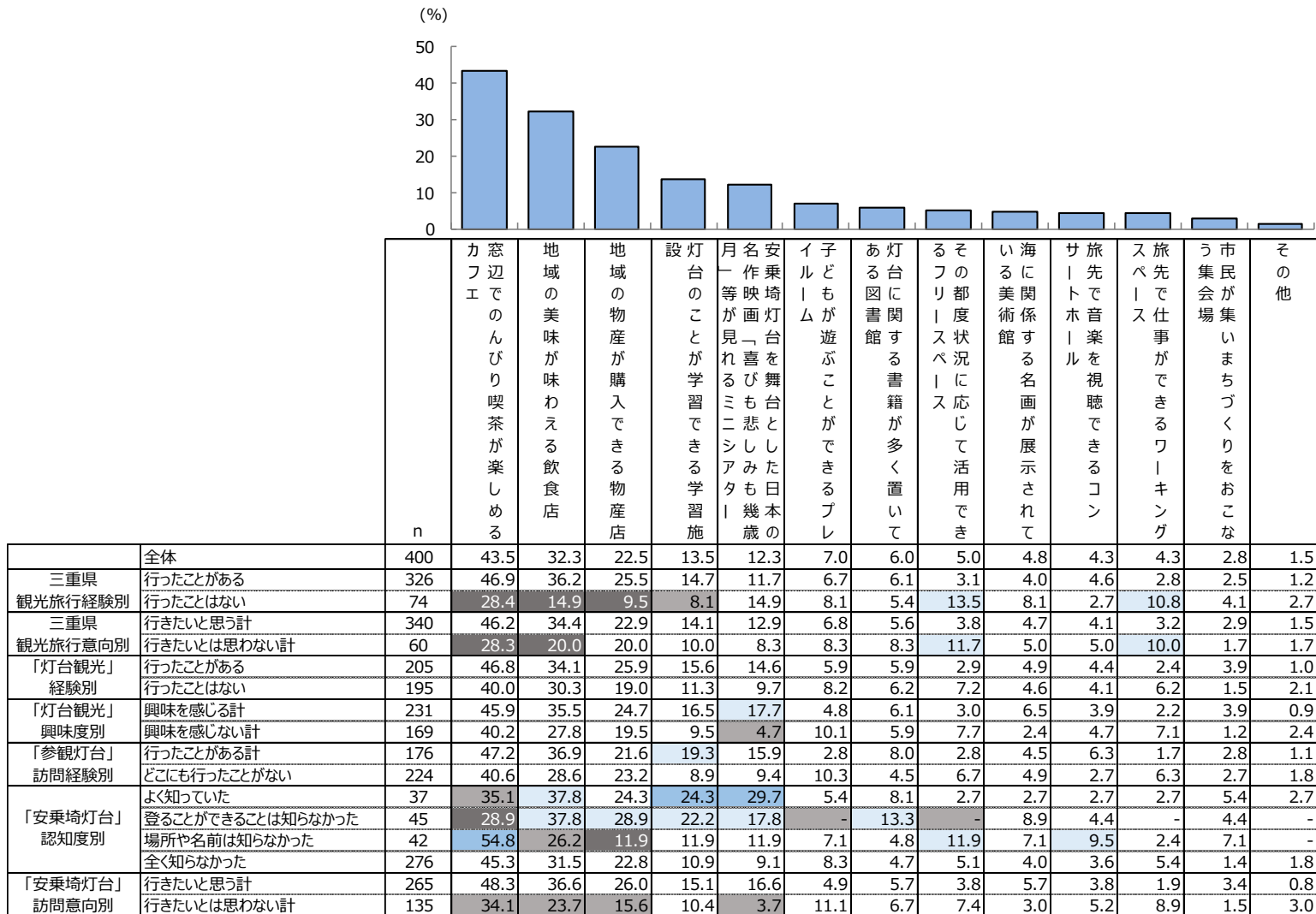
- 性別では、女性で「窓辺でのんびり喫茶が楽しめるカフェ」が50%。性・年代別では、女性40代以上で「窓辺でのんびり喫茶が楽しめるカフェ」が55～61%にのぼっている。



調査結果

(21) 「安乗埼灯台資料館」の今後のあり方

- 性別では、女性で「窓辺でのんびり喫茶が楽しめるカフェ」が50%。性・年代別では、女性40代以上で「窓辺でのんびり喫茶が楽しめるカフェ」が55～61%にのぼっている。

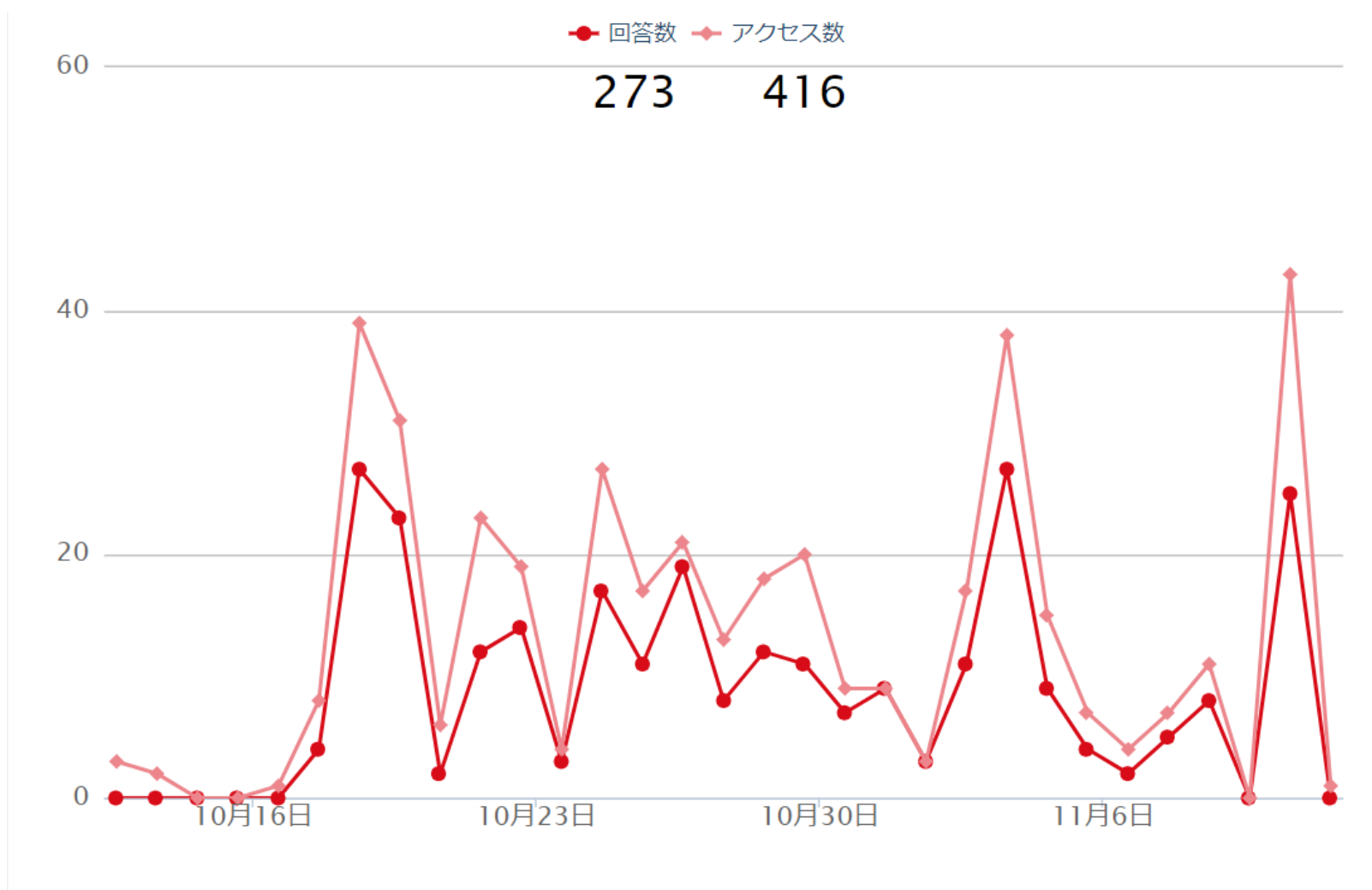


3. アンケート調査結果報告

～安乗埼灯台来訪者調査～

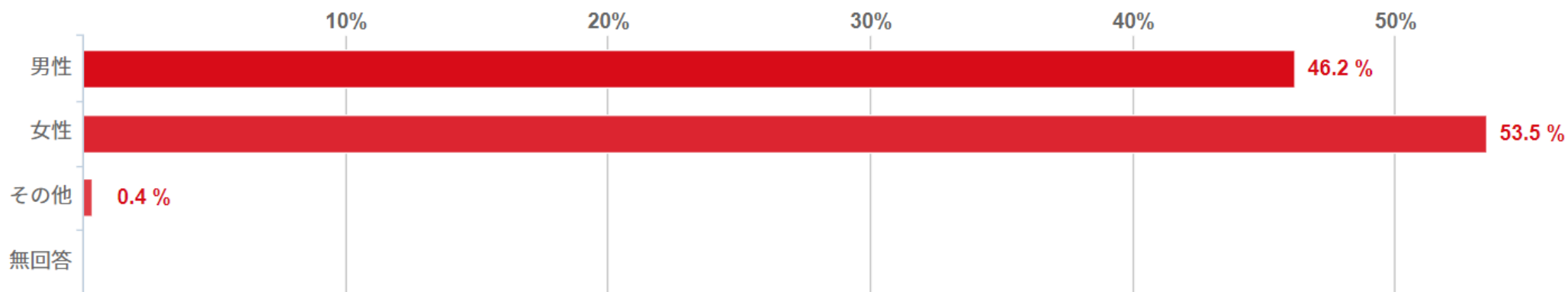
調査概要

- 調査方法：WEBを用いたアンケート調査
- 調査対象：安乗埼灯台来訪者
- サンプル数：273サンプル
- 調査期間：2023年10月17日（火）～11月14日（火）

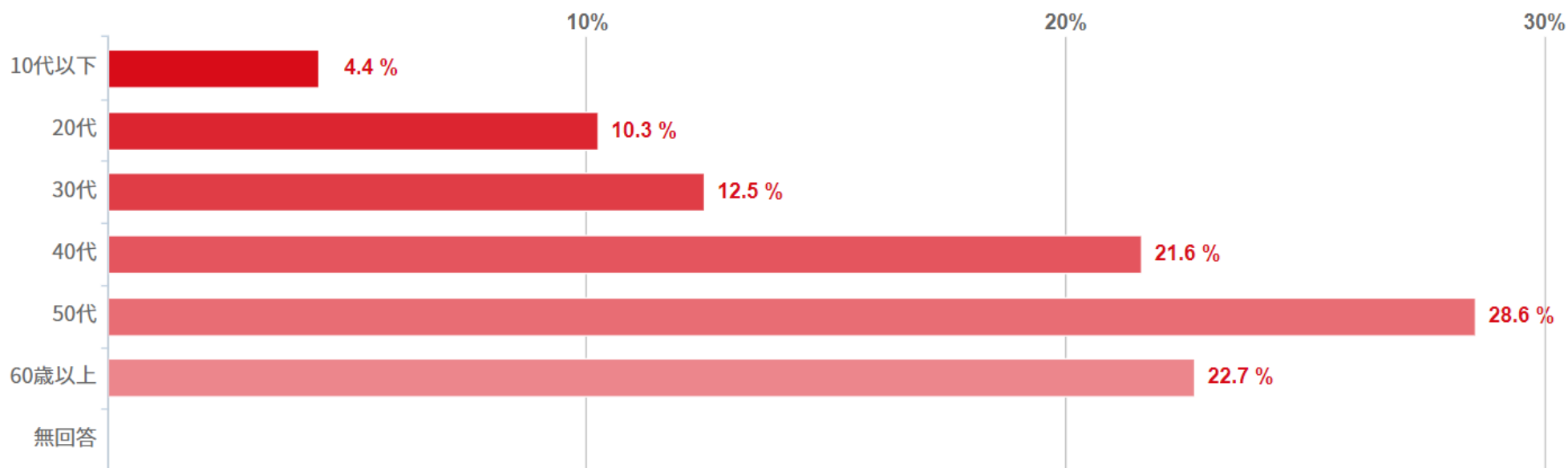


調査結果

〈回答者の性別〉

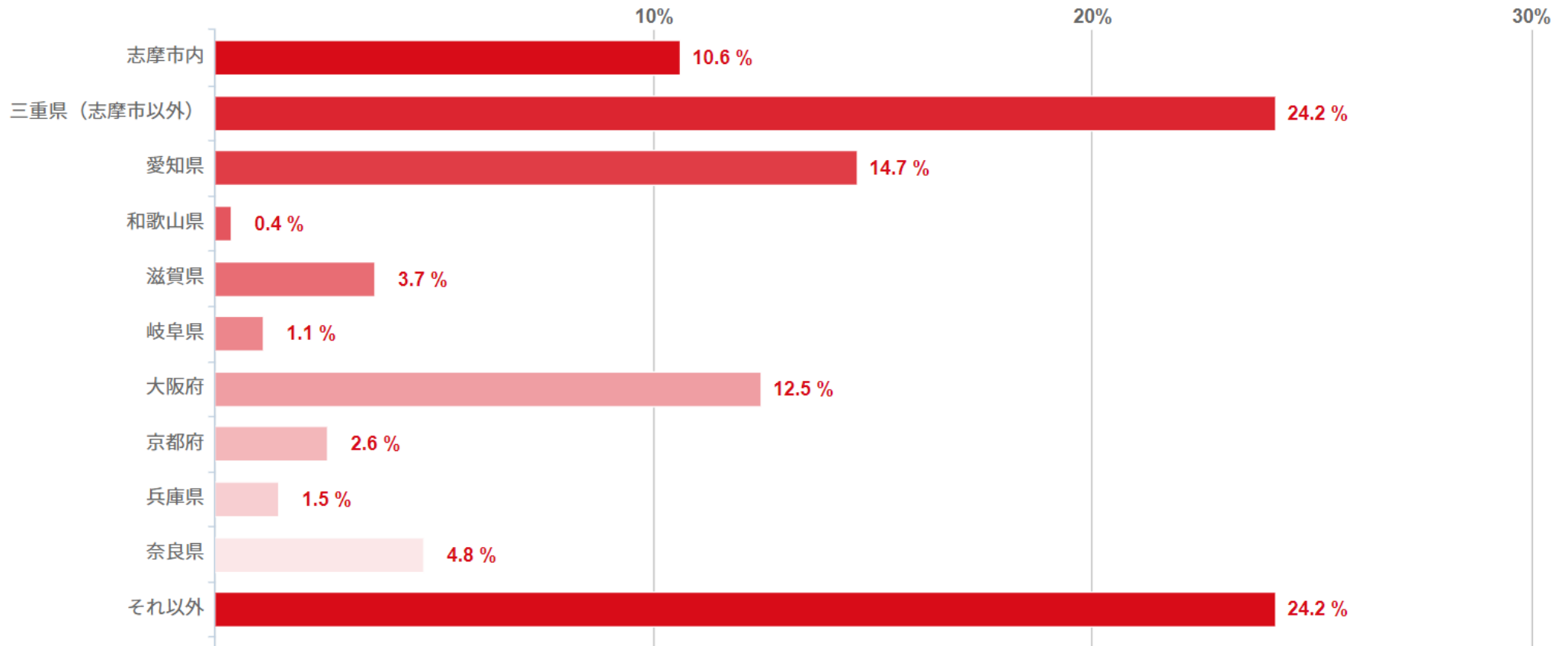


〈回答者の年齢〉



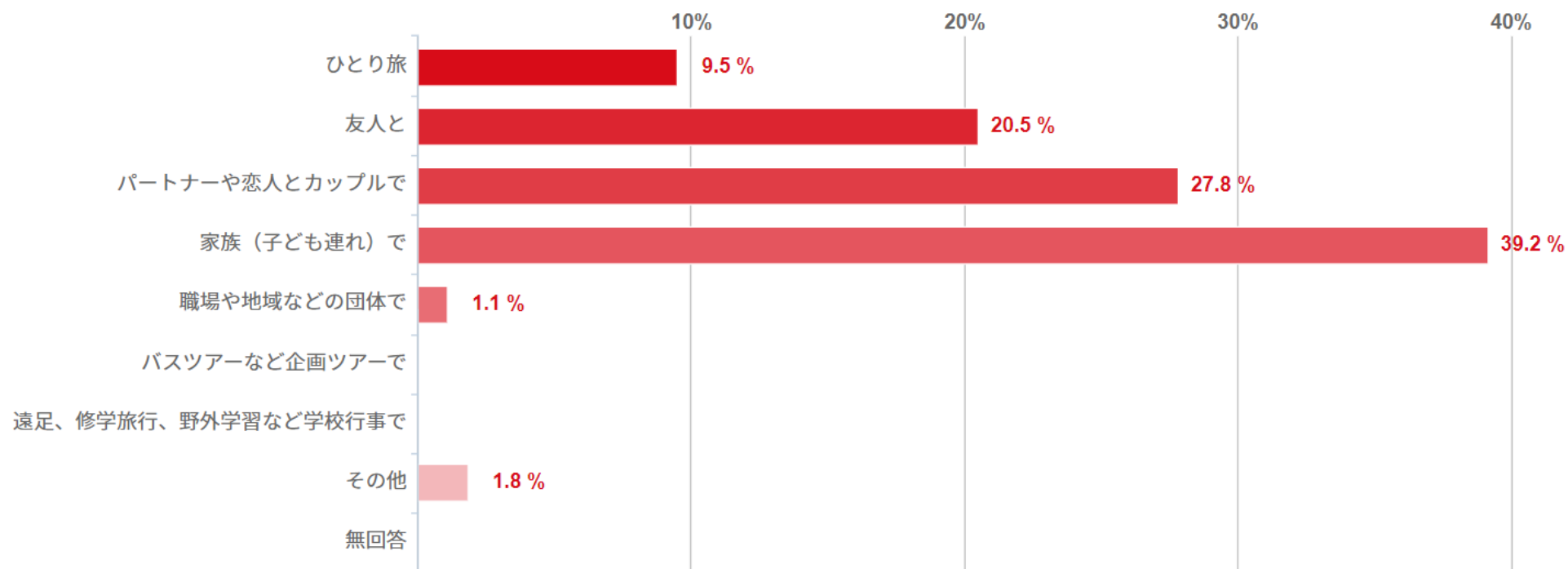
調査結果

<回答者の居住地>



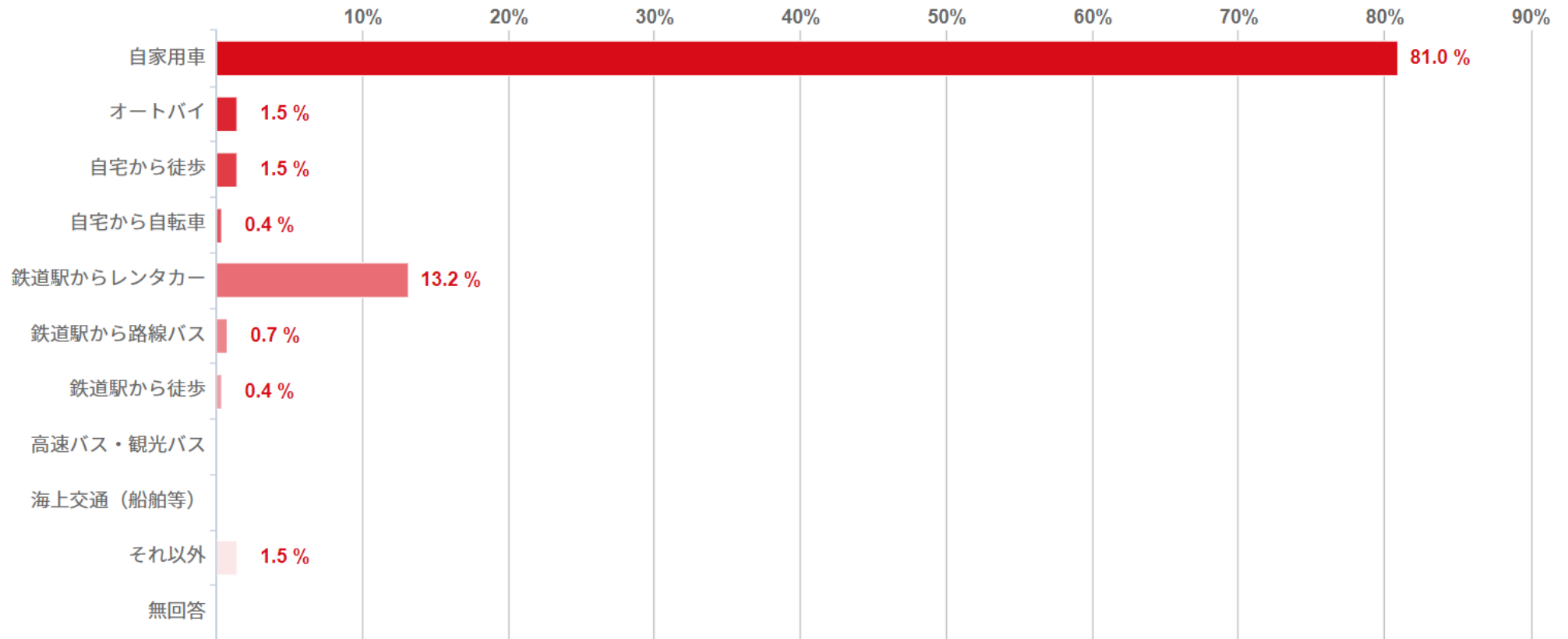
調査結果

〈回答者のグループ構成〉



調査結果

〈交通手段〉



調査結果

〈立ち寄り先の満足度〉

安乗埼灯台

(回答数: 273)

■ とても満足した ■ まあまあ満足した ■ あまり満足していない ■ 不満だった ■ 立ち寄っていない ■ 無回答

安乗埼灯台資料館

(回答数: 273)

■ とても満足した ■ まあまあ満足した ■ あまり満足していない ■ 不満だった ■ 立ち寄っていない ■ 無回答

灯台カフェ

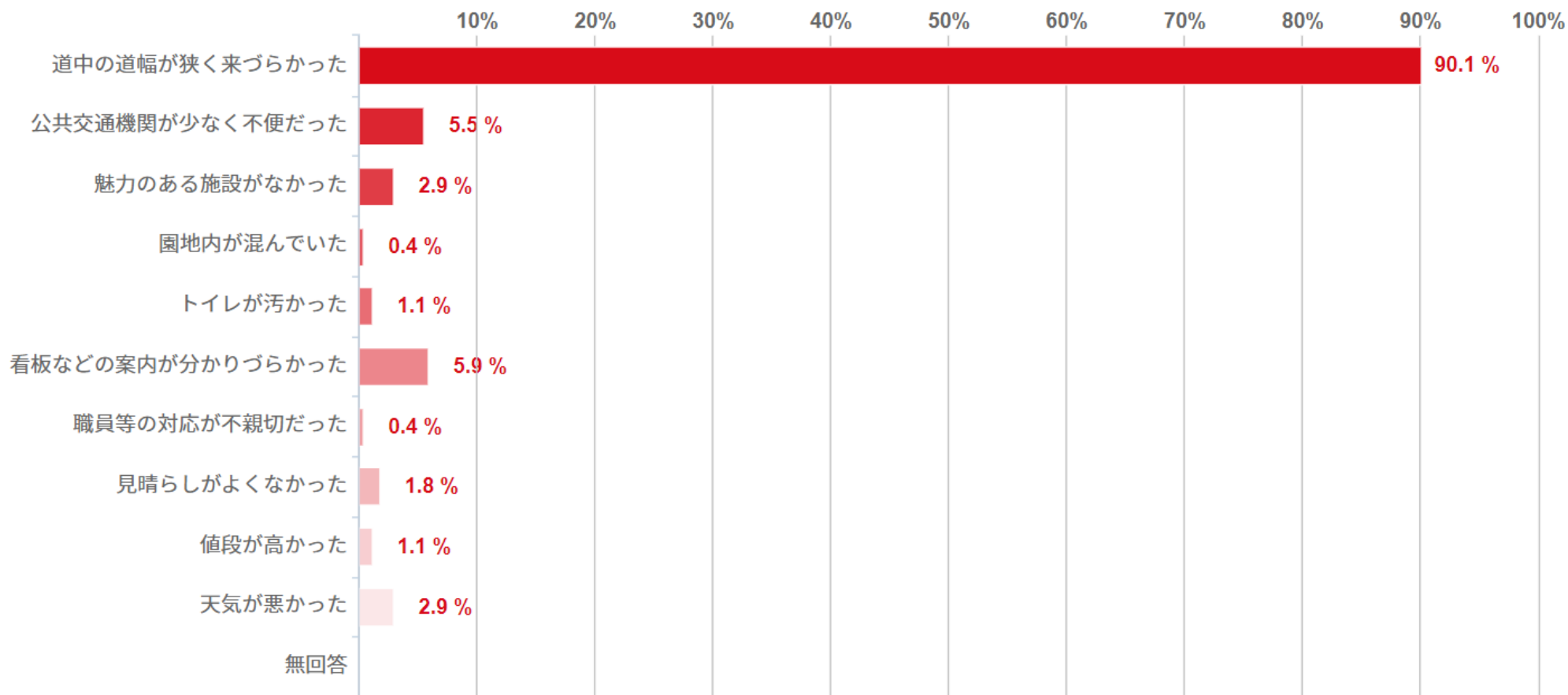
(回答数: 273)

■ とても満足した ■ まあまあ満足した ■ あまり満足していない ■ 不満だった ■ 立ち寄っていない ■ 無回答



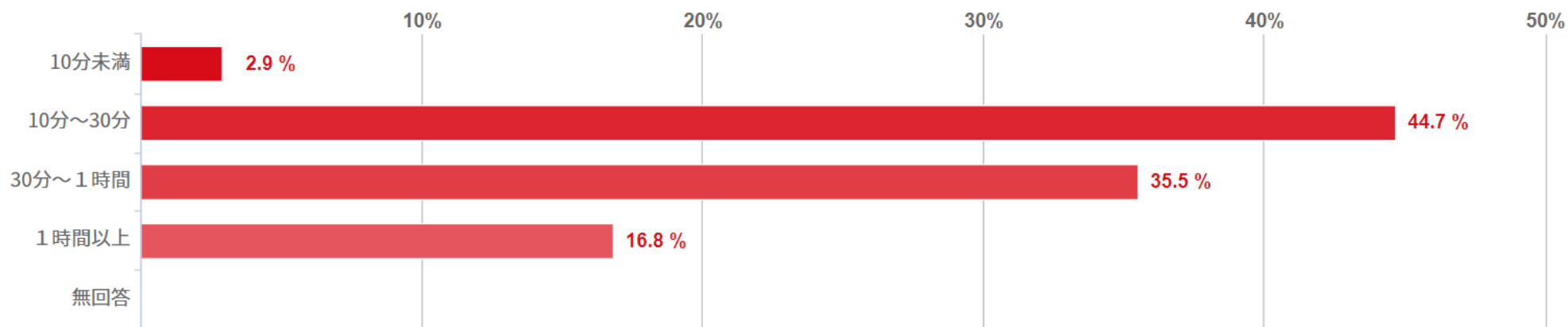
調査結果

<不満点>



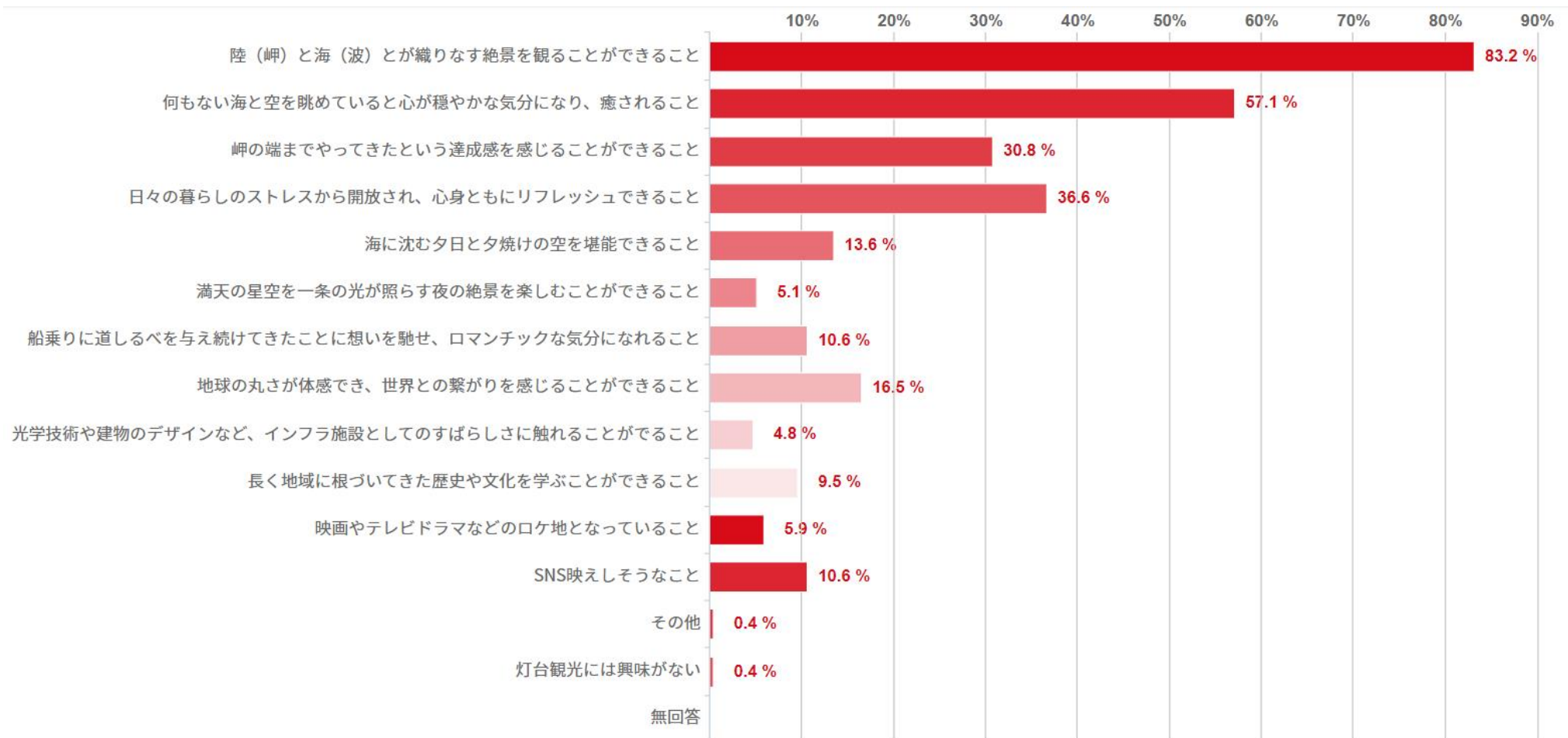
調査結果

〈滞在時間〉



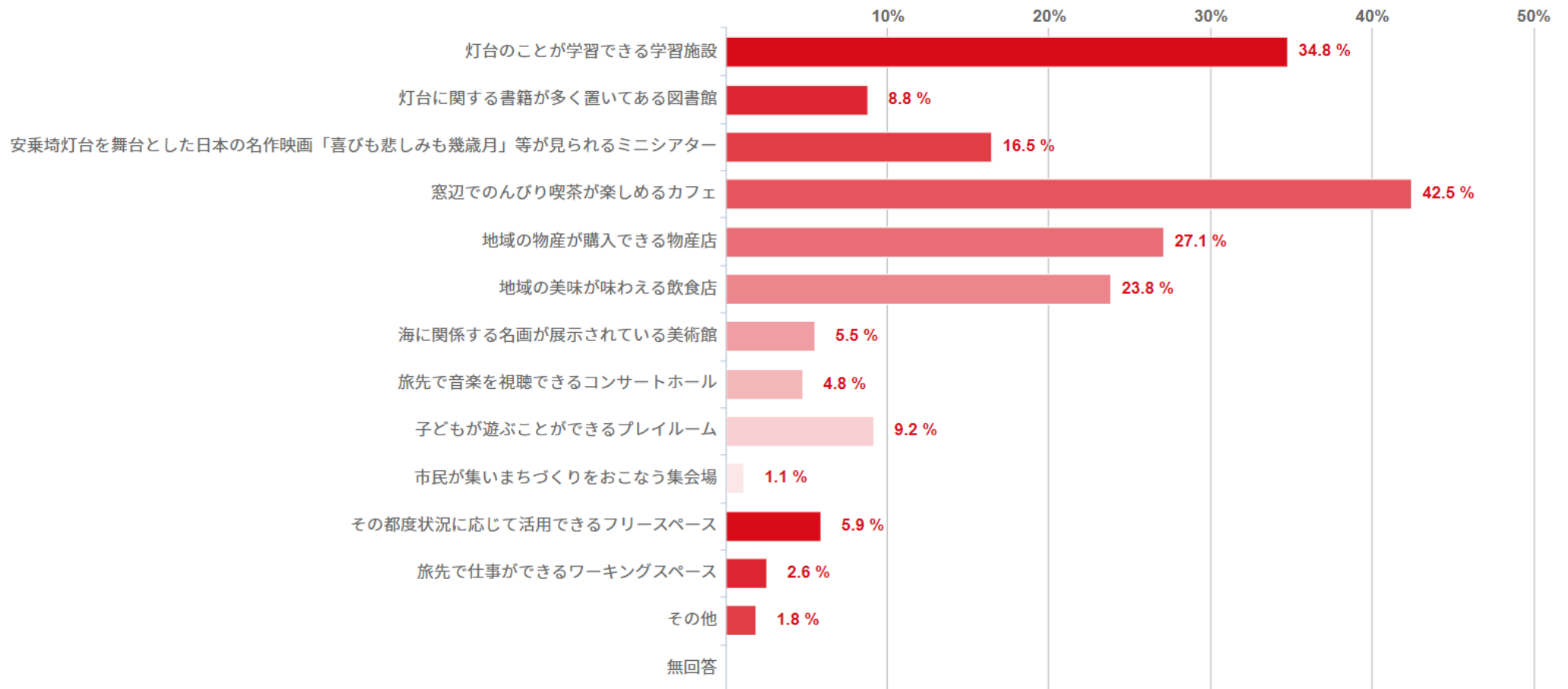
調査結果

〈灯台観光の魅力〉



調査結果

〈資料館改修の方向性〉



2. 11/11イベントレポート

～「ライトハウスフェス 海と灯台のある町」～

イベントレポート

2023年11月13日



報道関係者各位

主催者 安乗埼灯台観光活性化推進コンソーシアム

安乗地区伝統の大漁旗リレーが復活！
「ライトハウスフェス 海と灯台のある町」を開催しました！
2023年11月11日 【場所】安乗埼灯台 など

安乗埼灯台観光活性化推進コンソーシアムは、安乗埼灯台の初点灯 150 周年を記念し、令和 5 年 11 月 11 日（土）に、安乗埼灯台とその周辺エリアの活性化を目的として、「ライトハウスフェス 海と灯台のある町」を開催いたしました。このイベントは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、灯台を中心に地域の海の記憶を掘り起こし、地域と地域、異分野と異業種、日本と世界をつなぎ、新たな海洋体験を創造していく「海と灯台プロジェクト」の助成を受けて実施したものです。



イベント概要

・イベント名 ライトハウスフェス 海と灯台のある町

<開催概要>

安乗埼灯台では、初点灯（明治 6 年 4 月 1 日）から 2023 年で 150 周年の節目を迎えたことを記念し

イベントレポート

「ライトハウスフェス 海と灯台のある町」を開催しました。

イベントでは、安乗地区伝統の大漁旗を掲げて走る「大漁旗リレー」が復活し、優勝チームには、三重ブランドにも選ばれた、安乗ふぐコース付き無料宿泊券を進呈されました。そのほか、謎解きゲームや飲食ブースや雑貨販売を行うマルシェ、安乗地区の漁船団による大漁旗パレードを開催され、地元スイーツ店による灯台をイメージしたスイーツの限定販売も行われました。

- ・日 程 令和5年11月11日（土）
- ・開催場所 安乗岬園地
- ・参加人数 約 500 名
- ・協力団体 （一社）志摩スポーツコミッション、あのりおこし、三重外浜漁業協同組合 安乗事業所
安乗岬旅館組合、株式会社上田商店、（公社）燈光会、鳥羽海上保安部、三重テレビ放送株式会社、（一社）じゃまテラス

大盛況！大漁旗リレーとあのりマルシェ

秋晴れの澄み渡る青空のもと、安乗岬園地に飲食店や雑貨販売など 11 店舗のお店が軒を連ね、第 1 回ライトハウスフェスがスタートしました。

安乗地区の伝統競技「大漁旗リレー」では、地元の若者らや、鳥羽海上保安部など 8 チーム 24 人が参加し、熱いレースが繰り広げられました。優勝した安乗地区出身のチームは、晴れやかな表情で優勝賞品の「あのりふぐコース付き無料宿泊券」をゲットしていました。

当日、安乗岬園地を訪れた観光客や地元住民から、大漁旗を掲げて走るランナーを応援する声援が飛び交い、会場は熱気に包まれていました。

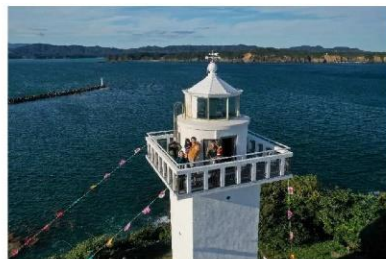
また、あのりマルシェでは、地元のカフェがキッチンカーで出店しコーヒーやスイーツ等を販売したり、アイゴやウツボ等の未利用魚を、おいしく調理して販売するハンバーガーショップが出店したりするなどし、訪れた観光客は、地元の名産を楽しんでいました。

その他にも、ドローンによる記念撮影が行われるなど、イベント会場を訪れた参加者らは、それぞれライトハウスフェスを楽しんでいました。

イベント参加者からは、「大漁旗リレーの迫りに圧倒された。マルシェも地元ならではの物が販売されていて来てよかった。ぜひ、来年も開催して欲しい」といった声をいただきました。



イベントレポート



安乗崎灯台とは（三重県 志摩市阿児町安乗）

安乗崎は、志摩半島の中央部に東から深く切れ込んだ良港である的矢湾の入口にある岬で、周囲には暗礁が多く、古くから安乗崎、大王崎、鎧崎をもって志摩三崎と称し、海の難所として知られていました。

この灯台は、イギリス人R. Hプラントンの指導により明治6年4月1日、全国で20番目に完成された歴史ある灯台です。

この灯台は風光明媚な地にあることから、灯台の周囲は公園として整備され、また、近くには志摩市立の「灯台資料館」があり、初代灯台の1/3の模型を始め、この灯台に関する資料等が分かりやすく展示されています。また、灯台に近い安乗集落には、安乗文楽という歴史のある人形芝居が伝わっています。

イベントレポート



<団体概要>

団体名称 : 安東埼灯台観光活性化推進コンソーシアム
活動内容 : 市民ワークショップの開催、マルシェの開催 等



海と灯台プロジェクト 新たな灯台利活用モデル事業

日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、灯台を中心に地域の海の記憶を掘り起こし、地域と地域、異分野と異業種、日本と世界をつなぎ、新たな海洋体験を創造していく「海と灯台プロジェクト」。その取り組みのひとつである「新たな灯台利活用モデル事業」は、灯台の様々な利活用モデルを創出することで、灯台の存在意義を高め、灯台を起点とする海洋文化を次世代へと継承していくことを目的としています。

海と日本プロジェクト公式サイト <https://uminohi.jp/>

海と灯台プロジェクト公式サイト <https://toudai.uminohi.jp/>

<お問い合わせ先>

団体名称 : 安東埼灯台観光活性化推進コンソーシアム 担当者 : 志摩市観光課 (原条)
電話 : 0599-44-0005
メールアドレス : 0599-44-5262

4. 関係者とのディスカッション

- ① 安乗埼灯台等の利活用についてのアイデア討議**

安乗埼灯台等の利活用についてのアイデア討議

<資料館の活用に関するアイデア>

○特産品の販売

資料館を特産物が買えるようなショッピングで
きる場所に

産直市場。資料館を使って

マルシェスペース（灯台の資料展示、物産
（干物、野菜）、倉庫）

特産物の販売

物産店。ここでしか買えないもの（食品、ノ
ベルティグッズ）

ノベルティグッズ販売

○飲食施設

食の専門店（ふぐなどの魚）

飲食

絶景レストラン（食堂）

○フリーキッチン

シェアキッチン、出店スペース

1日3回くらい安乗でとれる食材を使った田舎ふ
るさと料理を実演して提供（めかぶじる）

安乗埼灯台等の利活用についてのアイデア討議

<資料館の活用に関するアイデア>

○フリースペース

地域の人たちが稼げる場所に（他の観光地と比べて消費が生まれにくい）

資料館に地域の人たちが日替わりで出店できるフリースペースを

色々な人々が定期的にイベントなどを開催できる状況

○その他

チームラボの展示、タッチパネル

宿泊できる灯台守体験

○イベント開催

資料館でアート体験 いろいろな窓越しに灯台を見るとそれぞれ違って見える

ヨガ教室

粘土文楽人形づくり

レゴとコラボ／レゴで灯台が作れる

ミニ水族館

サウナ化

安乗埼灯台等の利活用についてのアイデア討議

<園地等の活用に関するアイデア>

○アスレチック

アスレチック

スラッグライン

安全に乗れるものを集める（アスレチック）

灯台から資料館へのジップライン

岩場のアスレチック的なもの

子どもたちの遊び場（キャンプ、アスレチック）

バンジージャンプ

ボルダリング、ロッククライミング

○キャンプ

キャンプ

キャンプイベント

安乗埼灯台等の利活用についてのアイデア討議

<園地等の活用に関するアイデア>

○スポーツ場

ランニング、ウォーキング、灯台ラン

ランニング、サイクリング

バスケットコート

○スポーツイベント

芝生を活かしたスポーツイベントを

運動会

松葉すもう大会

安乗埼灯台等の利活用についてのアイデア討議

<園地等の活用に関するアイデア>

○集客イベント

謎解きイベント

駐車場の林を使った大迷路

ライブ会場

結婚式

フェス誘致（音楽、スニーカー、楽市楽座）

灯台をバックから花火

○文化イベント

毎日安乗文楽が見れる

灯台にグラフィティアート（バンクシー）

ドライブスルーシアター

海女さんの実演

安乗埼灯台等の利活用についてのアイデア討議

<園地等の活用に関するアイデア>

○星空観測

星空観察

星夜を見るためのベッド

天体観測

星空教室

○その他園地の活用

花見の名所

何かしらシンボルスポット的なもの

松林BAR

擬人化キャラonラインゲーム

安乗埼灯台等の利活用についてのアイデア討議

<周辺エリアの活用に関するアイデア>

○クルージング

岬巡りのツアー（海から）

よろい崎、大王埼、安乗埼を巡るツアー（船で）

海側から灯台が見えるクルージング

○その他回遊

空から灯台が見えるヘリ遊覧

大王埼灯台とのストーリーをつくる

○陸路の回遊

岬巡りのツアー（陸から）

灯台公園を含むまちあるきツアー

○その他

漁業の操業見学

登れる灯台16箇所どこでも繋がるテレビ電話

安乗埼灯台等の利活用についてのアイデア討議

＜アクセス性改善に関するアイデア＞

○新たな交通手段

パーク&バス（タクシー）ライドで道路の狭さを克服

南鳥羽からの連絡船

移動手段（電動キックボード）

トウトウトクでの移動

○アクセス環境の改善

道路の拡幅

もっとキレイに整備された歩道など

灯台に行くまでの道に出店する

灯台までの動線をライトアップ（竹あかりやキャンドル等）

4. 関係者とのディスカッション

② グランドコンセプトについて

グランドコンセプトに係る討議

- ① 癒し（デジタルデトックス）、絶景、ノスタルジー（懐かしさ）
- ② 海も園地も灯台もきれいに美しく（保全）
- ③ 海の恵み（景色と食べ物、海女さんと漁師さんeg. きんこ芋）
- ④ Annorhysm（音楽、キャンプ、志摩の暮らし食堂）
- ⑤ 癒し、絶景：中学校のグランドがそこにあったという歴史、身近にある環境、愛（灯台に対する地域の愛を紡ぐ）
- ⑥ 絶景：ここならではの食べ物（生産者との触れ合い）、継続する

海の恵みの
感動体験

癒しと絶景の安乗埼灯台

4. 関係者とのディスカッション

③ グランドコンセプトにもとづく取組について

「グランドコンセプト」に基づく園地全体の取組

- 安乗岬園地で行えばいいと思う「グランドコンセプト」に基づく取組を書き出してみましよう

「グランドコンセプト」に基づく園地全体の取組

- ① 夜の時間：星空観察、ビアガーデン、ナイトシアター、安乗文楽の一般公開
朝の時間：朝活（ヨガ、体操、太極拳）→日常的にある
昼の時間：カメラマンを対象とした撮影講座、おかず探しWALK（まちを巡って定食を作る）
- ② 絶景：初日の出（夕陽）を見るを磨き上げる、資料館を使った何か。旅館に泊まって見る。
癒し：安乗にはヨガスタジオがない。デジタルデトックス。サイクリング、ウォーキング：ヘルスツーリズム
- ③ 絶景：フォトスポットづくり、富士山、リアス式海岸→撮った写真はカレンダーやポストカードにして届ける。
癒し：甘味が癒し。青空スイーツ教室、親子で来た人には親と子が別々に行動できる（eg.キッズランド）
海の恵みを利用した海女小屋体験、囲炉裏の風景、朝どれ商品、BBQ、魚介類に触れ合う機会、タコを触る、魚の捌き体験・食べ比べ、さかなクンがガイド

「グランドコンセプト」に基づく園地全体の取組

- ① 絶景：バイクツーリングの誘致、ワインディング（安乗と大王を回った人になにか渡す）自転車も？
癒し：安乗岬園地を使った「何もしない」時間
- ② 癒しと絶景：スマホで安乗の絶景を撮影して安乗の特産品をプレゼント
謎解きゲーム、宝探しゲーム（遊歩道）
- ③ 安乗拍子、漁協でペール缶を使ったBBQ（漁師と海女さんが食材を持ってくる）：夏（サザエ、アワビ）、冬（クロダイ、ふぐ、鍋）
資料館：松葉で固形燃料を作る工場
夜：松葉の里（イルミネーション）
- ④ キャンプか旅館か選べるツアー（一泊2日）：ガイド付き、墓地前集合→神社→灯台（松林の方から園地に入る）→資料館→芝生でお昼→ワークショップ&撮影→星空・イルミネーション+BBQ（焚火を見ながら音楽）、灯台にプロジェクションマッピング、お風呂は五右衛門風呂、早めに寝ます→朝市に漁協へ行く→ブッフェスタイルで食材を選ぶ
- ⑤ キャンプ（子ども用キャンプ教室）